FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

FinePix 4800Z

DESIGN BY F·A·PORSCHE

使用説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラファインピックス 4800Zの使い方がまとめられています。内容をご理解の上、正しくご使用ください。

BL00007-100 (1) J

目　次

1
2
3
4
5
6

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメモリーカード（スマートメディア）の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- **皮膚に付着した場合：**
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- **目に入った場合：**
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- **飲み込んだ場合：**
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品はクラスB情報技術装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しています。
  しかし本製品をラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

- iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

カメラの特長／付属品

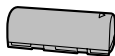
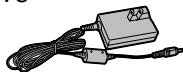
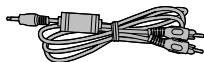
カメラの特長

- "スーパーCCDハニカム"(総画素数ハニカム配列の約240万画素)搭載により、記録画素数432万画素の高画質
- 低分散非球面レンズを採用した高性能光学3倍ズームを搭載
- 小型軽量アルミニウム・マグネシウム合金ボディ
- 斬新なポルシェデザイン
- 起動2秒、撮影間隔最短1秒と軽快な操作感
- マクロ撮影機能付きオートフォーカス（マニュアルフォーカス可能）
- 被写体に適した条件を設定できる撮影シーン別オート撮影モード
- 撮影結果の確認に便利なプレビュー機能
- スーパーCCDハニカムの特長を生かした約5.6倍ハニカムズーム（光学3倍ズームと1メガピクセル記録時最大約1.88倍のなめらかな（多段階）デジタルズーム機能併用）
- 再生ズーム機能（最大15倍）
- 最大画素数でも可能な連写機能
- ムービー（動画）撮影可能（320×240ピクセル、音声付き）
- 撮影情報の記録に便利なボイスメモ機能
- 音声記録ができるボイスレコーディング機能
- 2型13万画素低温ポリシリコンTFT液晶モニター
- ドットマトリクス表示パネルによるわかりやすい操作
- クレードルに置くだけで簡単充電、簡単パソコン接続
- USB接続により簡単高速に画像ファイル転送が可能
- 簡単プリントを実現するDPOF（Digital Print Order Format）対応
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠

  ＊DCFは電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

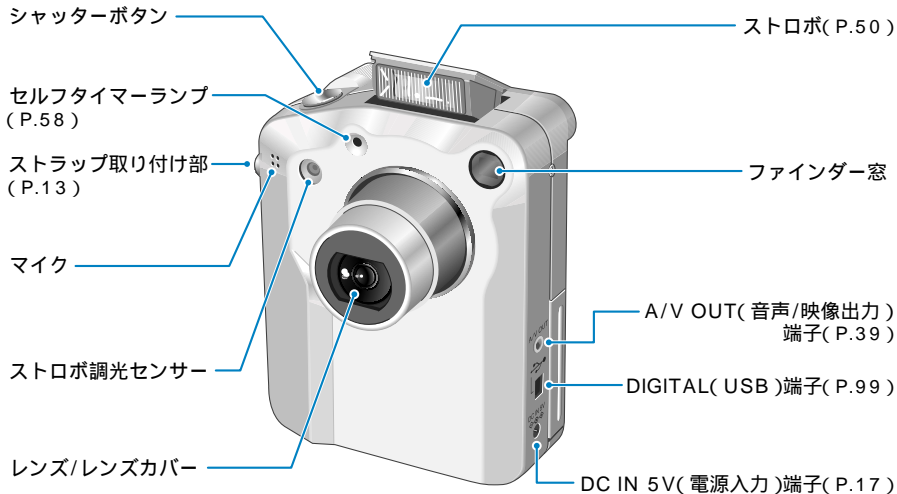
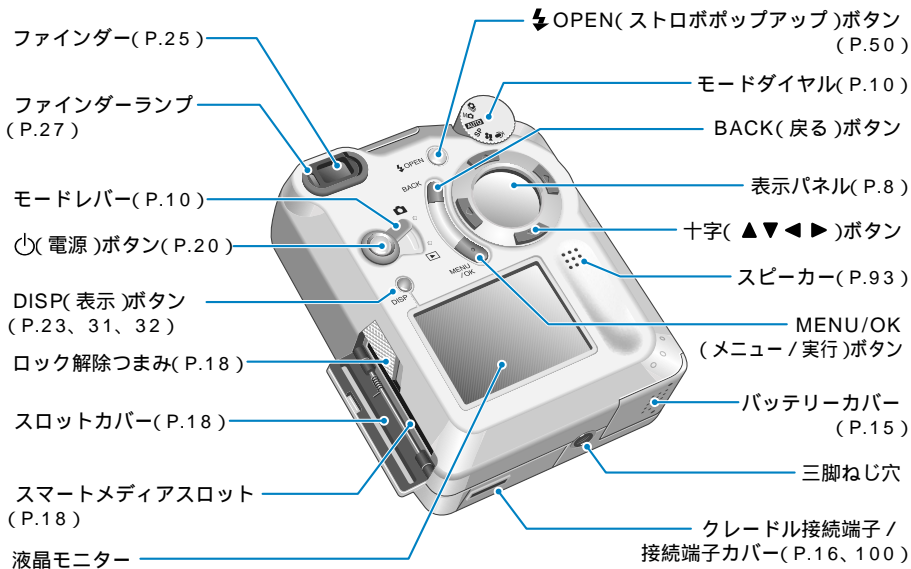
付属品

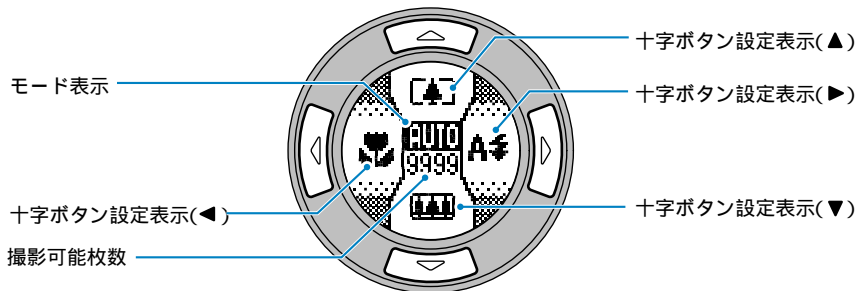
- **クレードル（ピクチャー クレードル）**（1台）

- **充電式バッテリー NP-80**
  容量1300mAh（1本）
- **ACパワーアダプター AC-5VS**
  接続コード：約2m（1台）

- **A/Vケーブル**
  φ2.5mmミニミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m（1本）

- **ハンドストラップ**（1本）
- **USBインターフェースセット**（1式）
  - ・CD-ROM：Software for FinePix EX（1枚）
  - ・専用USBケーブル（1本）
  - ・ソフトウェア取扱ガイド（1部）
- **使用説明書**（本書1部）
- **安全上のご注意**（1部）
- **保証書**（1部）

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。

ファインダー（P.25）
ファインダーランプ（P.27）
モードレバー（P.10）
（電源）ボタン（P.20）
DISP（表示）ボタン（P.23、31、32）
ロック解除つまみ（P.18）
スロットカバー（P.18）
スマートメディアスロット（P.18）
液晶モニター
OPEN（ストロボポップアップ）ボタン（P.50）
モードダイヤル（P.10）
BACK（戻る）ボタン
表示パネル（P.8）
十字（▲▼◀▶）ボタン
スピーカー（P.93）
MENU/OK（メニュー／実行）ボタン
バッテリーカバー（P.15）
三脚ねじ穴
クレードル接続端子／接続端子カバー（P.16、100）
OPEN
BACK
MENU /OK
DISP
AUTO
SP

表示パネル

表示パネルには操作状況によりアイコン(絵表示)が表示され、操作の手助けをします。表示に従って十字ボタンを操作します。

＊カメラの操作状況：撮影・再生モード、撮影可能枚数、ストロボ設定、マクロ設定などの確認や変更ができます。

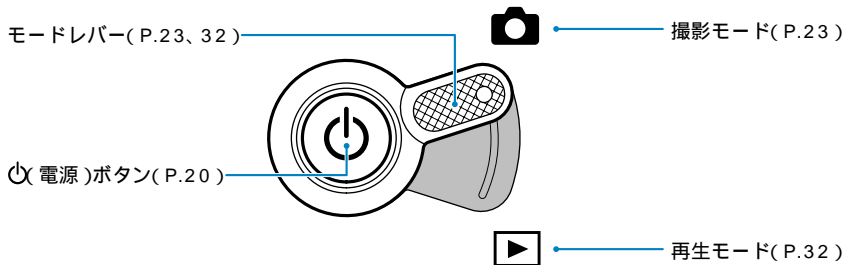
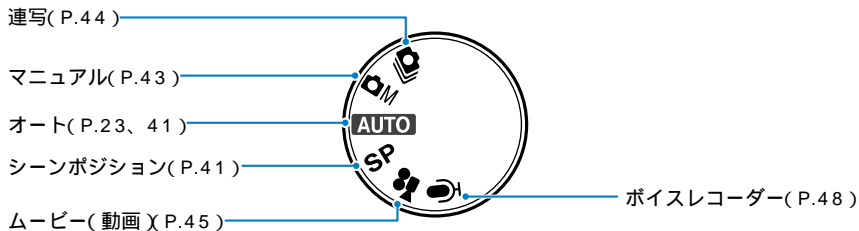
＊表示パネルは撮影操作時(シャッターボタンを除く)では橙色に、再生操作時では緑色に約5秒間点灯します。

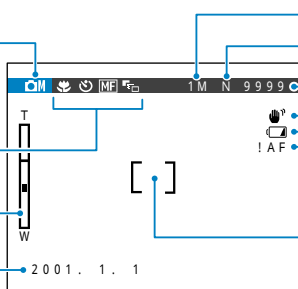
表示パネル一覧

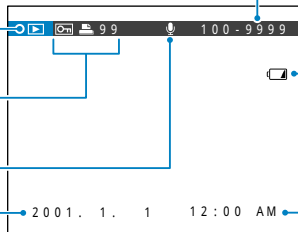
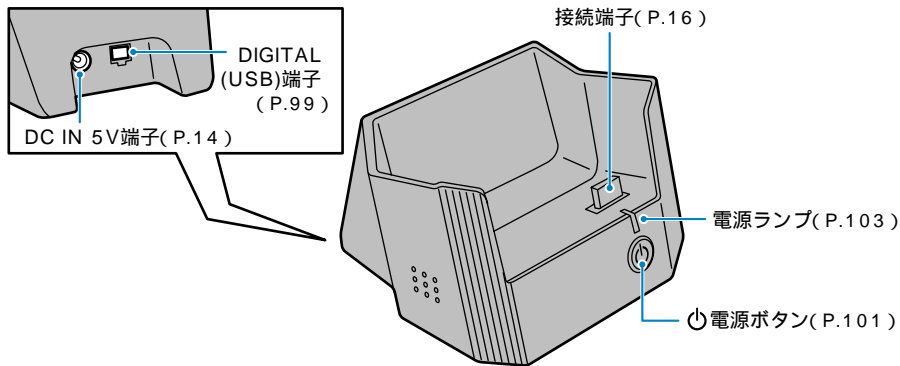
撮影	モード表示	オート・人物・風景・夜景・モノクロ・マニュアル・連写・ムービー・ボイスレコーダー・各種設定・ズーム移動 ピクセル/クオリティー
	十字ボタン	上・下・左・右
	ズーム	望遠・広角
	プレビューズーム	拡大・縮小
	ストロボ設定	オート・赤目軽減・強制発光・スローシンクロ・発光禁止
	マクロ設定	ON・OFF
	マニュアルフォーカス	ピントを近くに・ピントを遠くに

再生	モード表示	静止画・ムービー・ボイスレコーダー・ズーム移動/トリミング・ 再生中・一時停止中・各種設定
	コマ送り	前画像・次画像
	再生ズーム	拡大・縮小
	ムービー再生	再生・一時停止・早送り・巻き戻し・停止・ ムービーコマ送り
	ボイスレコーダー/ボイスメモ再生	再生・一時停止・早送り・巻き戻し・停止・ 飛ばし再生

各部の名称

モードレバー

モードダイヤル

液晶モニターの文字表示例：撮影

撮影モード
マクロ
セルフタイマー
MF マニュアルフォーカス
オートブラケティング
ズームバー
日付
ピクセル
クオリティー
撮影可能枚数
手ブレ警告
電池残量警告
AF警告
AFフレーム

M 1M N 9999
T
W
!AF
2001. 1. 1

液晶モニターの文字表示例：再生

クレードル

◆クレードルについて◆

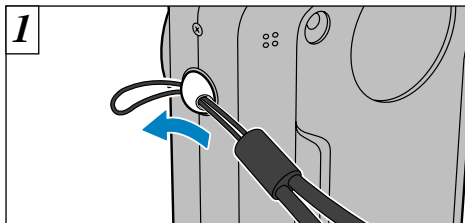
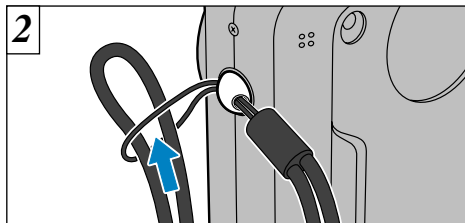
クレードルを使用すると次のようなときに便利です。

●カメラを使用しないときにセットしておけばバッテリーの充電ができます(➡16ページ)。

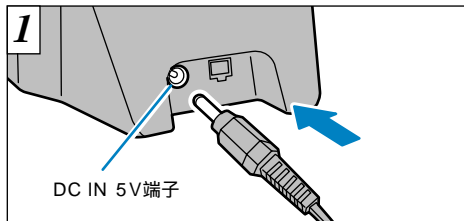
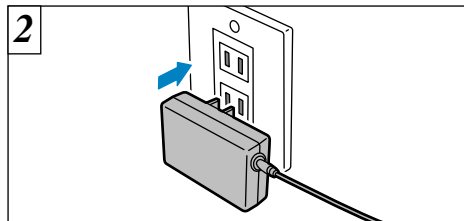
●USBインターフェース接続でパソコンと高速なファイル転送ができます(カードリーダー機能➡100ページ)。

●インターネットを経由したテレビ電話ができます(PCカメラ機能➡102ページ)。

! ACパワーアダプターと、専用USBケーブルの接続が必要です(➡14、99ページ)。

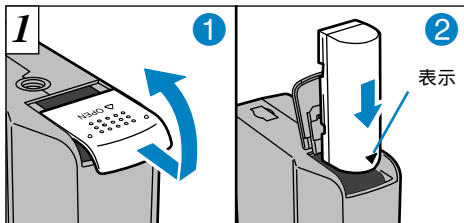
ストラップを取り付けます

ストラップの小さい方の輪を、ストラップ取り付け部に通します。

次に大きい方の輪の端を、小さい方の輪の中に通して引っ張ります。

! 持ち運びの際、レンズカバーを押さないようにご注意ください。

クレードルを設置します

クレードルにACパワーアダプターAC-5Vを接続します。

ACパワーアダプター AC-5Vを電源コンセントに差し込みます。

- パソコンと接続したい場合は99ページをご参照ください。
- 弊社専用品以外をご使用になった場合の不具合は保証いたしかねます。

ACパワーアダプターのプラグは奥までしっかり差し込んでください。

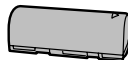
バッテリーをセットします

①バッテリーカバーをスライドさせて開けます。
②バッテリーの“▼”表示がある側からバッテリーを入れます。

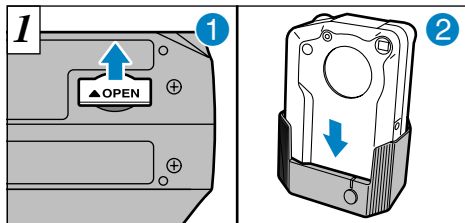
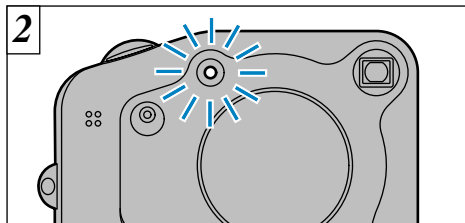
①バッテリーを押し込みながら②バッテリーカバーを閉めます。

1

! バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。
! バッテリーを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

◆使用するバッテリー◆

充電式バッテリー NP-80　1本

! 工場出荷時にバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
! バッテリーについてのご注意は110、111ページをご参照ください。

バッテリーを充電します

❶カメラ底部の接続端子カバーを開けます。
❷カメラの電源は必ずOFFにしてクレードルにセットします。

セルフタイマーランプが点灯し、バッテリーの充電が開始されます。完了するとセルフタイマーランプが消灯します。

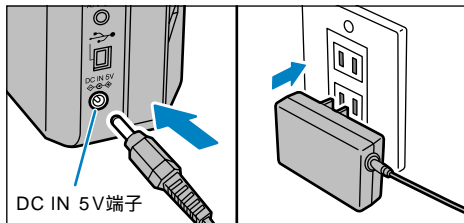
! クレードル接続端子にしっかりと差し込んでください。

クレードルの電源ボタンを押す必要はありません。

! 使いきったバッテリーの充電時間は約5時間です。
! 充電中に電源を入れると充電が中断されます。
! 別売のバッテリーチャージャーBC-80を使用すると充電時間を約70分に短縮できます（➡107ページ）。

ACパワーアダプターで使う

クレードルを使用せず、カメラの“DC IN 5V”端子にACパワーアダプター AC-5Vを接続することができます。バッテリーの消耗を気にせず撮影・再生（テレビ接続時など）や充電も可能ですので、旅行先などで便利です。

●使用可能なACパワーアダプター
型名：AC-5VS（付属品）、AC-5VH、
AC-5VN、AC-5V

カメラの電源が切れていることを確認します。ACパワーアダプターの接続プラグを“DC IN 5V”端子に差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

1

❗ 使用説明書では「ACパワーアダプターAC-5V」と表記しています。

❗ AC-5VS、AC-5VH、AC-5VNは海外でも使用できます（➡112ページ）。

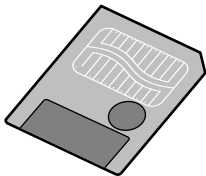
❗ 弊社専用品以外をご使用になった場合の不具合は保証いたしかねます。

❗ ACパワーアダプターについてのご注意は112ページをご参照ください。

スマートメディア™をセットします

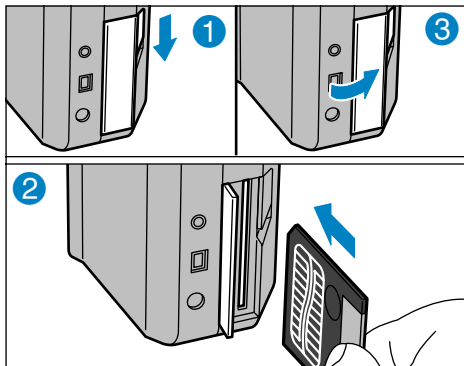
スマートメディア™（別売）

スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。

●MG-4SB(4MB)
●MG-8SB(8MB)
●MG-16SB(16MB)
●MG-32SB(32MB)
●MG-16SW(16MB:ID付き)
●MG-32SW(32MB:ID付き)
●MG-64SW(64MB:ID付き)
●MG-128SW(128MB:ID付き)

! ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません(➡82ページ)。

! 本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。

! 3.3V仕様品の中には「3V」または「ID」という表示のものがあります。

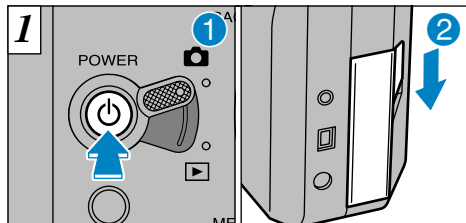
! スマートメディアについてのご注意は113ページをご参照ください。

❶電源が切れていることを確認し、スロットカバーのロックを外しカバーを開けます。

❷スマートメディアスロットにスマートメディアを確実に奥まで差し込みます。

❸スロットカバーを閉めます。

! 電源が入った状態でスロットカバーを開けると、スマートメディア保護のため電源が切れます。

! スマートメディアの向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。

スマートメディア™を取り出します

❶ファインダーランプが緑色に点灯していることを確認し、電源を切ります。
❷スロットカバーのロックを外します。

スマートメディアを「軽く押し込む」と、スマートメディアが少し飛び出しますので、簡単に取り出せます。

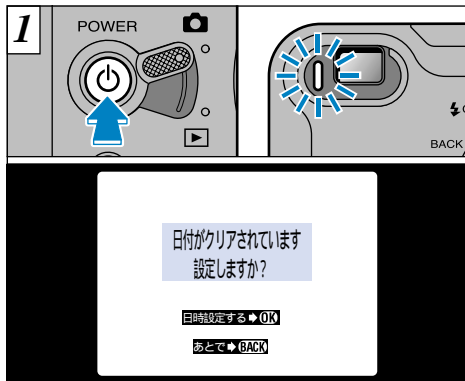
❗電源のON/OFFについては20ページをご参照ください。

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。スマートメディア、または画像ファイルが破壊されることがあります。

❗スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

◆画像のプリントとパソコンへの取り込みについて◆

●プリントするときは83、106ページをご参照ください。
●パソコンに画像を取り込むには、99〜106ページをご参照ください。

電源のON/OFF

電源をON（入）/OFF（切）するには“ ⏻ ”（電源）ボタンを押します。電源を入れるとファインダーランプ（緑）が点灯します。
日付がクリアされている場合は、確認画面が表示されます。設定するときは“ MENU/OK ”ボタンを押します（➡22ページ）。

❗ モードレバーを“ 📷 ”にして電源を入れると、レンズカバーが開き、レンズ部が動きますので手で押さえないでください。

2

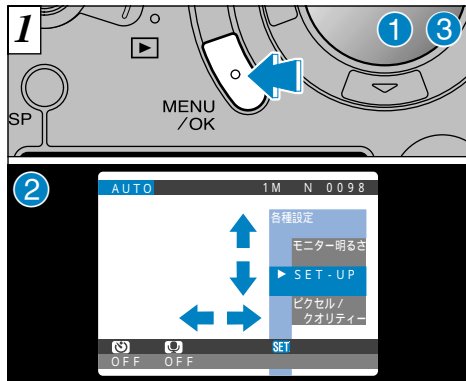
	液晶モニター	表示パネル
❶	表示なし	▮▮▮
❷	▮▮ 白点灯	▮▮
❸	▮ 赤点灯	▮ 点滅
❹	□ 赤点滅	□

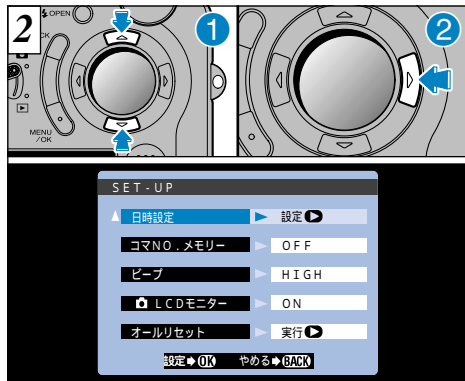
電源を入れバッテリー容量表示を確認します。
❶バッテリーの容量は十分です（表示なし）。
❷バッテリーの残容量は約半分以下です。
❸バッテリーの容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、バッテリーを交換するか充電をおすすめします。
❹バッテリーの容量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。バッテリーを交換するか充電をしてください。

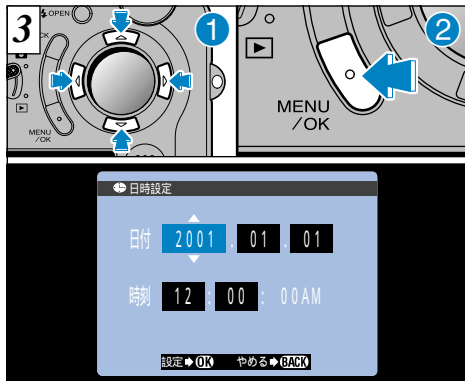
❗ ❶❷の表示パネルは、電源を入れて約2秒間のみ表示されます。

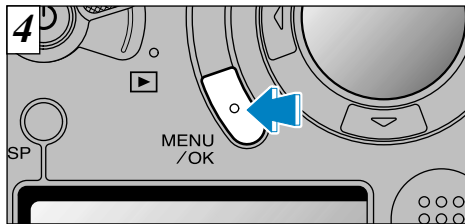
◆オートパワーセーブ機能◆

機能有効時は、約30秒間操作をしないと液晶モニターを消し、消費電力を抑えます（➡96ページ）。

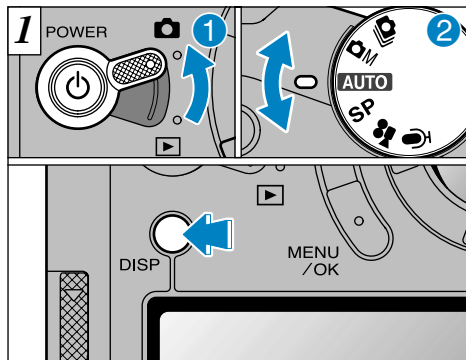
日時を合わせます

❶“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“ ▲▼◀▶ ”で“ SET 各種設定 ”から“ SET-UP ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

日付がクリアされていて“ 日時設定する ”を選んだ場合は、3から操作します（➡22ページ）。

❶SET-UP（セットアップ）画面が表示されます。“ ▲▼ ”で“ 日時設定 ”を選びます。
❷“ ▶ ”を押します。

❗“ SET 各種設定 ”について、詳しくは90ページをご参照ください。
❗設定した日時は、ACパワーアダプターを接続またはバッテリーを入れて約3時間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約1時間保持されます。

❶“ ◀▶ ”で合わせたい項目（年・月・日・時・分）を選び、“ ▲▼ ”で修正します。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押して設定します。

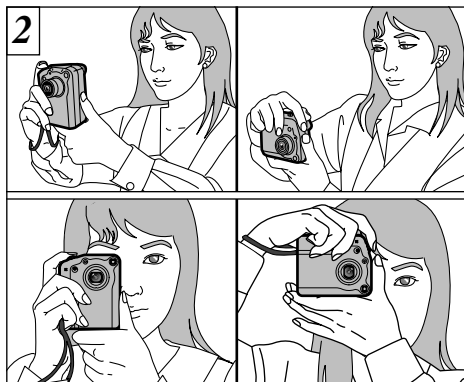
❗“ ▲ ”または“ ▼ ”を押し続けると数字が連続して変わります。
❗時刻表示で“ 12:00:00 ”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。
❗秒は設定できませんが、時報に正確に合わせるにはゼロ秒時に“ MENU/OK ”ボタンを押します。

SET-UP画面に戻りますので、設定を終了するには“ MENU/OK ”ボタンを押します。

日付がクリアされていて“ 日時設定する ”を選んだ場合、SET-UP画面に戻らず撮影または再生モードになります。

撮影してみましょう(オート撮影)

① モードレバーを“📷”にし、② モードダイヤルを“AUTO”に合わせます。

ファインダー撮影(マクロ撮影を除く)では“DISP”ボタンを押して、液晶モニターをOFFにします。

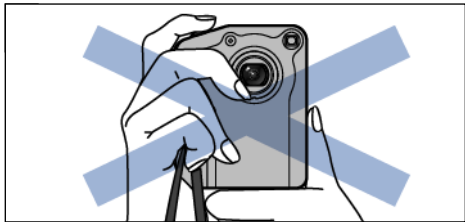
●撮影可能距離:約60cm〜無限遠

❗“❗CARD ERROR”“❗CARD NOT INITIALIZED”“❗WRITE ERROR”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面(金色の部分)を乾いた柔らかい布などでよくふいてから、再度セットしてください。また、フォーマット(➡76ページ)が必要な場合があります。

ストラップに手首を通し、両脇を締め、両手でカメラを構えます。

❗約60cmより近づいた場合にはマクロを設定してください(➡54ページ)。

❗消費電力を抑えるにはファインダー撮影(液晶モニターOFF)をおすすめします。

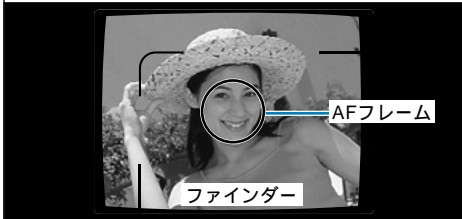
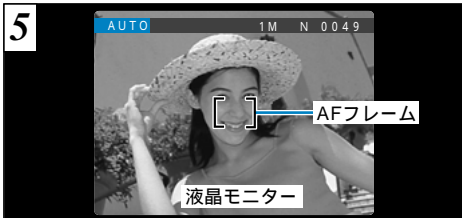
❗一般的な撮影ではオートストロボの使用をおすすめします(➡51ページ)。

❗撮影するときカメラが動くと、画像がブレる原因になります。とくに、暗い場所で撮影する場合は手ブレ防止のためストロボ撮影(➡50ページ)を行うか、三脚の使用をおすすめします。

レンズやマイク、ストロボ調光センサーに、指やストラップがかからないようにしてください。

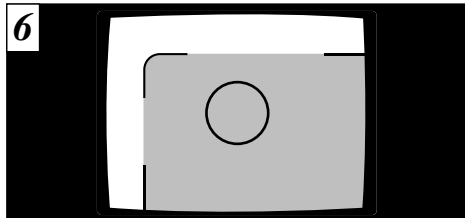
4

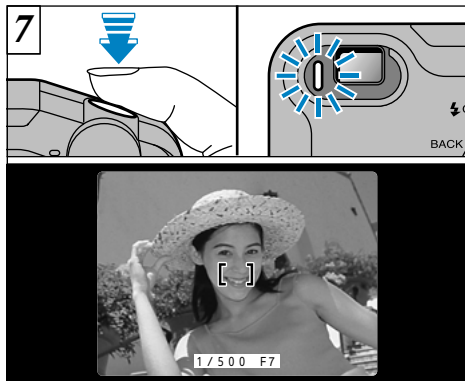
被写体を大きく写したいときは、“▲”（望遠）を押します。広い範囲を写したいときは、“▼”（広角）を押します。このとき液晶モニターに“ズームバー”が表示されます。

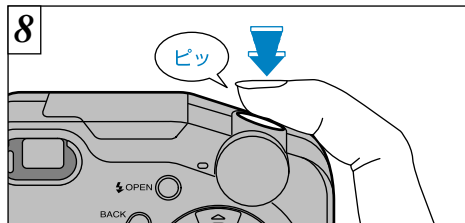
- 指やストラップがかかると、適正な撮影ができないことがあります。
- レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は109ページを参照してレンズをきれいにしてください。

- 光学ズームとデジタルズーム（➡55ページ）の切り換わり時は、いったんズームが止まります。
- 焦点距離が約36mm～108mm相当（35mmカメラ換算）の光学3倍ズームです。
  電源を入れたときの焦点距離は約44mm相当です。

液晶モニターまたはファインダーを使って、被写体がAF（オートフォーカス）フレーム全体を満たすようにねらいます。

❗被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください（➡29ページ）。

❗薄暗いシーンなど、液晶モニターで被写体の確認がしにくい場合は、ファインダーの使用をおすすめします。

ファインダー撮影では、被写体までの距離が約0.8m〜1.5mの場合、図の□の部分が撮影されます。

❗撮影範囲を正確に合わせたい場合は、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターのAFフレームが小さくなり、“シャッタースピード/絞り値”が表示(ファインダーランプ[緑]が点滅から点灯)されるとピント合わせは完了です。

❗シャッターボタンを半押しすると一時的に液晶モニターの映像が止まりますが、記録される画像とは異なります。
❗暗くてピントが合わない場合は、被写体から約2m離れて撮影してください。

半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと(全押し)、“ピッ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像が記録されます。

❗シャッターボタンをいっきに全押しするとAFフレームは変化せず、そのまま撮影されます。
❗撮影するとファインダーランプが橙色に点灯し(撮影不可)、その後緑色に変わると撮影できます。
❗ストロボ充電中はファインダーランプが橙色に点滅します。
❗被写体(画像の細かさなど)によって記録されるファイル量が一定ではないため、撮影可能枚数が減らないかまたは2コマ減る場合があります。
❗警告表示については115〜117ページをご参照ください。

■ファインダーランプ表示について

表　　示	状　　態	操　　作
緑点灯	準備完了	すべての操作が可能
緑点滅	AF・AE動作中、手ブレ警告、AF警告	すべての操作が可能
緑・橙の交互点滅	スマートメディアに記録中	ズーム操作と撮影のみ可能
橙点灯	スマートメディアに記録中	操作できません
橙点滅	ストロボ充電中、PC通信中	操作できません
赤点滅	●スマートメディアについての警告 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、ライトプロテクトシールがはられている、空き容量がない、スマートメディア異常 ●レンズ動作異常	操作できません

2

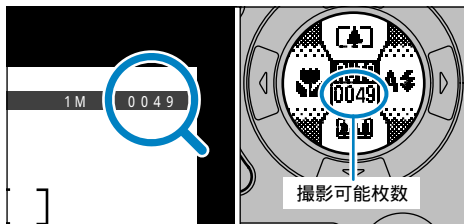
◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。

- 鏡・車のボディなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 被写体の手前や後方に物体が共存するとき（オリの中の動物や木の前の人物など）
- 高速で移動する被写体

撮影可能枚数について

液晶モニターまたは表示パネルに、撮影可能枚数が表示されます。

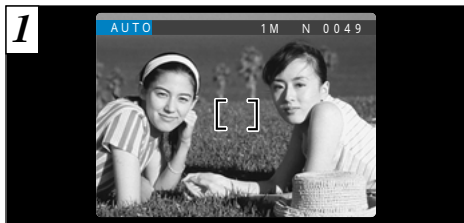
- ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）の変更は、92ページをご参照ください。
- 工場出荷時設定は、1M（ピクセル）、NORMAL（クオリティー）です。

■スマートメディアTM標準撮影枚数

（撮影枚数は被写体により多少の増減があります。また、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。）

ピクセル（記録画素数）	4M 2400×1800（432万）			2M 1600×1200（192万）		1M 1280×960（約123万）		VGA 640×480（約31万）
クオリティー	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL
画像1枚のファイルサイズ	約1700KB	約810KB	約330KB	約770KB	約390KB	約620KB	約320KB	約90KB
MG-4S（4MB）	2	4	11	4	9	6	12	44
MG-8S（8MB）	4	9	23	10	19	12	25	89
MG-16S（16MB）	8	19	46	20	39	25	49	163
MG-32S（32MB）	18	38	94	41	79	50	99	330
MG-64S（64MB）	36	77	189	82	159	101	198	663
MG-128S（128MB）	74	156	379	166	319	204	398	1330

＊スマートメディアをフォーマットした状態の撮影可能枚数です。

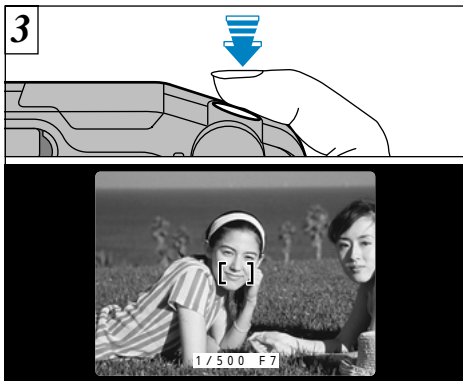
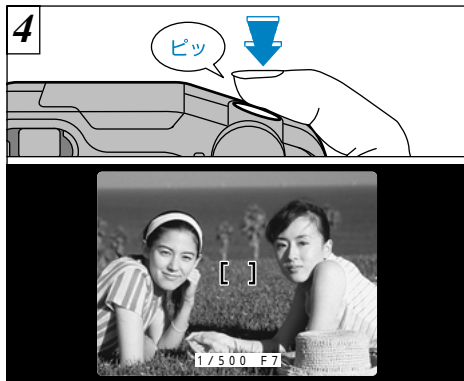
AF/AEロック撮影

1

このような構図では被写体（この場合は人物）がAFフレームから外れています。このまま撮影すると人物にピントが合いません。

2

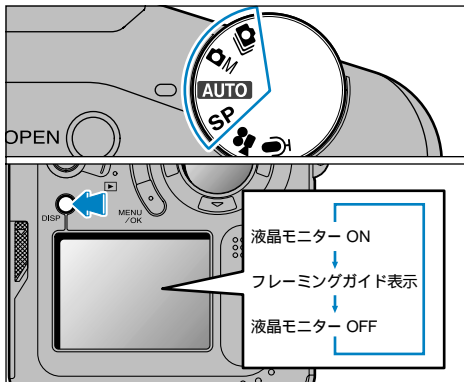
被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

◆AF（オートフォーカス）/AE（オートエクスポージャー）ロック◆

このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。液晶モニターの端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

そのままシャッターボタンを半押し（AF/AEロック）し、液晶モニターのAFフレームが小さくなり、“シャッタースピード/絞り値”が表示（ファインダーランプ［緑］が点滅から点灯）されるのを確認します。

シャッターボタンを半押し（AF/AEロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

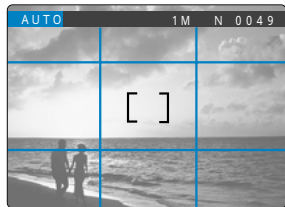
! AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

! AF/AEロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AF/AEロックをうまく活用しましょう。

ベストフレーミング機能

“ AUTO ・ SP ・ M ・ ”の撮影モードで設定できます。“ DISP ”ボタンを押すたびに液晶モニターの表示が切り換わります。“ DISP ”ボタンを押して“ フレーミングガイド ”を表示します。

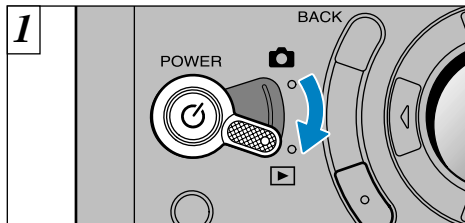
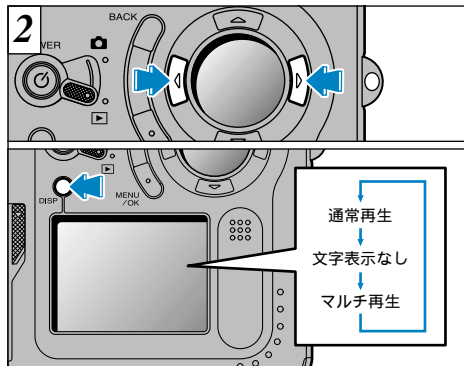
! フレーミングガイドは画像に記録されません。
! 縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割のめやすです。プリントすると3分割の位置から少しずれる場合もあります。

縦横3分割フレーム

主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。被写体の大きさやバランスを見ながら、躍動感のある構図で撮影できます。

◆重要◆

必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

2

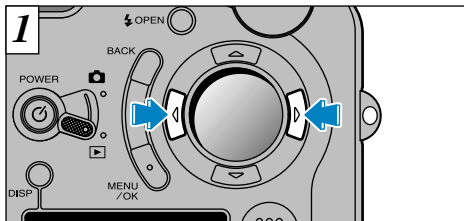
画像を見るには(再生)

モードレバーを"▶"に合わせます。

"▶"順送り、"◀"逆送りで画像を見ることができます。また、"DISP"ボタンを押すたびに液晶モニターの表示が切り換わります。

❗ モードレバーを"▶"に合わせたときは、最後に撮影した画像が再生されます。

❗ 液晶モニターが見にくい場合は、液晶モニターの明るさを調節してください(➡91、93ページ)。

◆再生できる静止画について◆

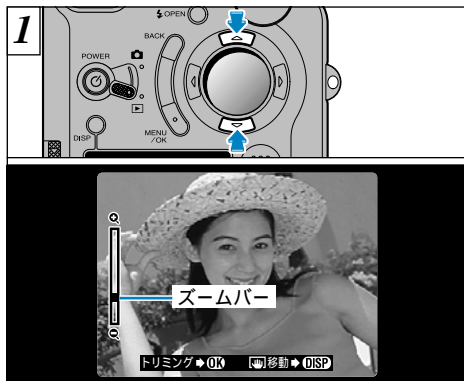
本機で記録した静止画、または弊社製デジタルカメラ FinePixシリーズ、CLIP-IT80/50、DS-30/20/10およびDS-260HD/250HD/230HD、あるいはそのほかのDCF対応カメラで、3.3V仕様のスマートメディアに記録した静止画(非圧縮を除く)が再生できます。

画像の早送り

再生中に“◀”または“▶”を約1秒間押し続けると、画像を早送りできます。

早送り中は小さく3コマ同時に表示されます。早送りをやめると、枠で囲われた画像が1コマ表示されます。

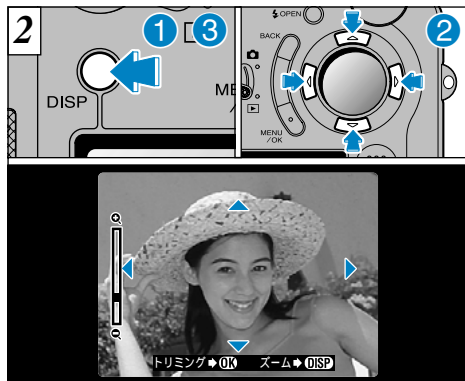
2

! スマートメディア内のおおよその再生位置が、めやすとなるバーで表示されます。

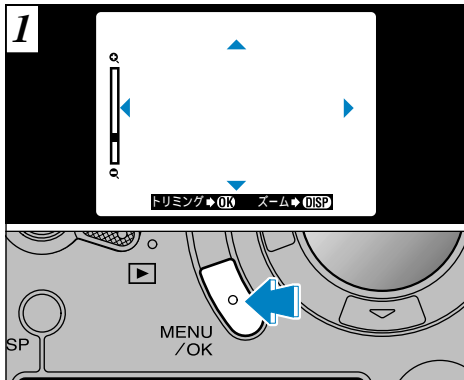
再生ズーム

1コマ再生中に“ ▲▼ ”を押すと、静止画をズーム（拡大）します。このとき“ ズームバー ”が表示されます。

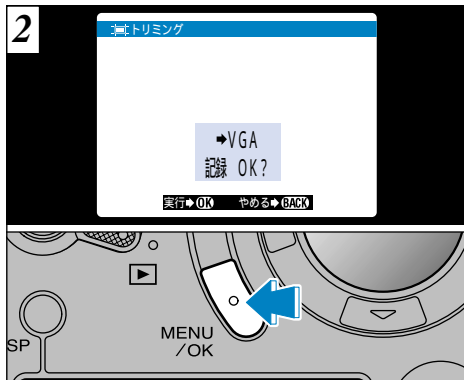
●ズーム倍率

4M 2400×1800ピクセル画像：最大約15倍
2M 1600×1200ピクセル画像：最大約10倍
1M 1280× 960ピクセル画像：最大約 8倍
VGA 640× 480ピクセル画像：最大約 4倍

❗ズーム中に“ ◀▶ ”を押すと、ズームが解除され次の画像に送られます。

ズームしたあとに、
❶“ DISP ”ボタンを押します。
❷“ ▲▼◀▶ ”を押すと、見える範囲を移動できます。
❸もう一度、“ DISP ”ボタンを押すとズームに戻ります。

❗“ BACK ”ボタンを押すと、画像が等倍に戻ります。

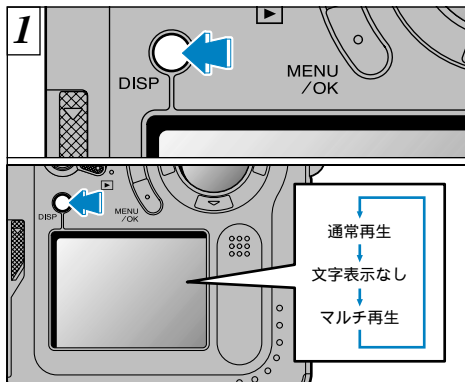
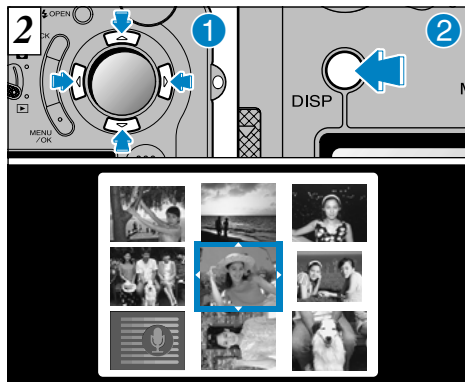
トリミング保存

再生ズームを利用後、“ MENU/OK ”ボタンを押してトリミングします。

ズーム倍率によって保存される画像サイズが変わり、VGAになる場合は“ トリミング➡OK ”の文字が黄色になります。
さらにVGA以下になると“ トリミング➡OK ”表示が消えます。

保存されるサイズを確認し、“ MENU/OK ”ボタンを押します。トリミングした画像は別ファイルで保存されます。

■画像サイズについて

2M	プリントに適しています。
1M	プリントに適しています。
VGA	プリント時の画質が低下するため、トリミングの文字が黄色になります。

＊VGA 以下はプリントに適さないため、トリミングの文字が消えトリミング保存できません。

マルチ再生

再生モードでは“ DISP ”ボタンを押すたびに液晶モニターの表示が切り換わります。“ DISP ”ボタンを押してマルチ再生（9コマ）にします。

❶“ ▲▼◀▶ ”でカーソル（橙色の枠）を動かして、コマを選べます。数回“ ▲ ”か“ ▼ ”を押すと次のページに切り換わります。

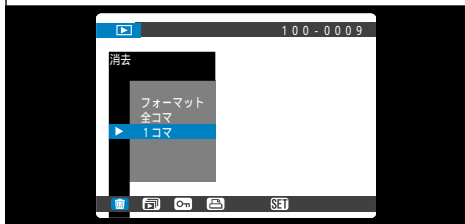
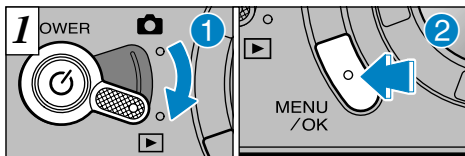
❷もう一度“ DISP ”ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

❗液晶モニターの文字表示は約3秒後に消えます。

❗再生ズーム中はマルチ再生はできません。

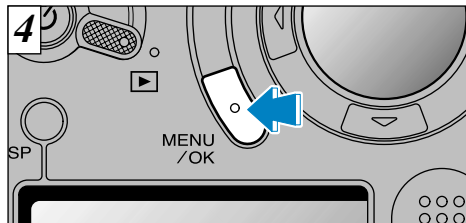
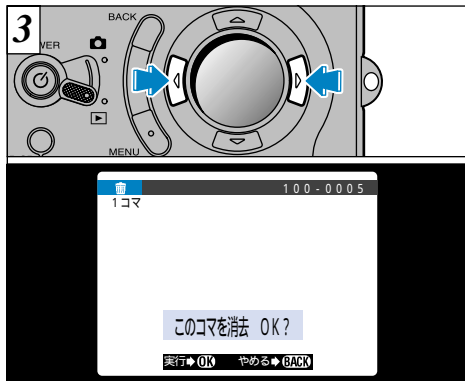
❗マルチ再生は、1コマ消去、1コマプロテクト、DPOF1コマ設定、DPOF確認/解除で画像を選択する場合に便利です。

画像を消すには（1コマ消去）

❶モードレバーを“ ▶ ”に合わせます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押すとメニューが表示されます。

“ 🗑消去 ”の“ 1コマ ”を選んだ状態で“ MENU/OK ”ボタンを押します。

❗全コマ消去、フォーマットについて、詳しくは76ページをご参照ください。
❗画像を選ぶときは、マルチ再生（➡36ページ）すると便利です。

2

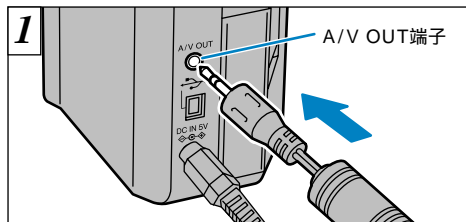
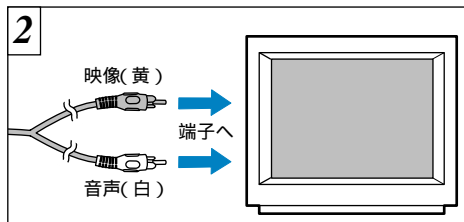
"◀▶"を押して消去したい画像を表示します。

"MENU/OK"ボタンを押すと、表示している画像が消去されます。消去が終わると次の画像が再生され、"このコマを消去 OK?"が表示されます。

❗1コマ消去をやめたい場合は、"BACK"ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度"BACK"ボタンを押してください。

❗"❗プロテクトされています"が表示された場合、プロテクトを解除する必要があります(➡79ページ)。

❗"プリント予約されていますこのコマを消去しますか?"が表示された場合は、DPOF指定されています。"MENU/OK"ボタンを押すと画像を消去し、DPOF指定が更新されます。

消去を続けるには、3からの操作を繰り返します。

テレビに画像を映すには

カメラとテレビの電源を切ります。カメラの“A/V OUT（音声/映像出力）”端子にA/Vケーブル（付属品）のプラグを接続します。

テレビの音声入力/映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

2

- A/Vケーブルを接続するとカメラから音声は聞こえなくなります。
- 液晶モニターの画像は消えません。
- 電源を入れたままA/Vケーブルを抜き差しすると、音声が正しく出力されない場合があります。
- コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプター AC-5Vを接続することをおすすめします。

- テレビの音声入力端子がステレオの場合は左（白）に接続してください。
- テレビの音声入力/映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

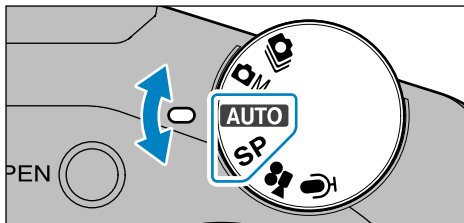
応用編 撮影では

応用編 撮影では、モードレバーを“📷”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

■撮影モードメニュー一覧

撮影モード	設定可能撮影メニュー	工場出荷時	共通メニュー	ストロボ (50ページ)	マクロ (54ページ)
AUTO オート(➡41ページ)	セルフタイマー(57ページ) ボイスメモ(59ページ)	OFF OFF		A⚡、👁、⚡、S⚡	○
SP シーンポジション(➡41ページ)	SP シーンポジション(41ページ) セルフタイマー(57ページ) MF マニュアルフォーカス(夜景のみ)(63ページ)	人物 OFF OFF		——	——
人物(➡42ページ)				A⚡、👁、⚡、S⚡	×
風景(➡42ページ)				——	×
夜景(➡42ページ)				👁、⚡	×
BW モノクロ(➡42ページ)				A⚡、👁、⚡、S⚡	○
📷M マニュアル(➡43ページ)	セルフタイマー(57ページ) WB ホワイトバランス(62ページ) ISO 感度(63ページ) MF マニュアルフォーカス(63ページ) シャープネス(64ページ) ストロボ(光量補正)(65ページ) アカルサ(露出補正)(65ページ) 多重露光(66ページ) 測光(68ページ)	OFF AUTO 125 OFF ノーマル 0 0 OFF マルチ	SET 各種設定 ※各種設定について詳しくは91ページ参照。	A⚡、👁、⚡、S⚡	○
連写(➡44ページ)	セルフタイマー(57ページ) MF マニュアルフォーカス(63ページ) オートブラケティング(61ページ)	OFF OFF OFF		——	○
ムービー(動画)(➡45ページ)	——	——		——	×
ボイスレコーダー(➡48ページ)	——	——		——	——

＊マニュアルフォーカス使用中はストロボ、マクロの設定を変えられません。

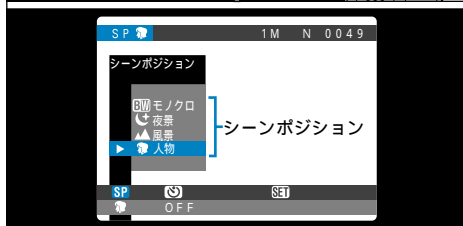
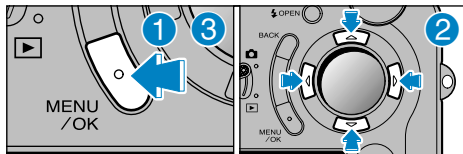
AUTO オート/SP シーンポジション

モードダイヤルを回してセットします。

AUTO オート

最も簡単に撮影できる、撮影用途の広い撮影モードです。

SP シーンポジション

撮影シーンに適した撮影モードです。
“SP”シーンポジションモードでは、人物・風景・夜景・BWの4種類からシーンを選べます。

SPの撮影モードを選ぶには

❶“MENU/OK”ボタンを押して、メニューを表示します。
❷“▲▼◀▶”で“SP シーンポジション”から撮影モードを選びます。
❸“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

人物

人物撮影に適したモードです。肌の色がきれいに見えるようにし、ソフトな感じに仕上がります。

- ストロボ使用時
  オートストロボ・赤目軽減・強制発光・スローシンクロ

風景

昼間の風景撮影に適したモードです。建物や山など風景をくっきりと仕上げます。

- ストロボ使用時
  自動的に発光禁止になり、設定は変えられません。

夜景

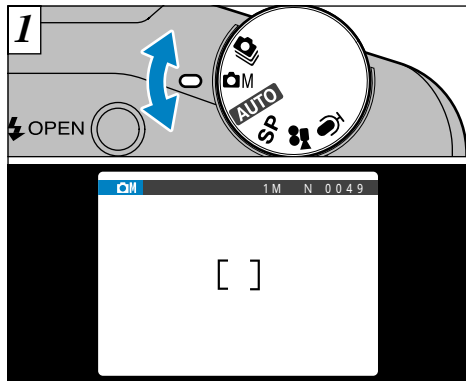
夕景や夜景の撮影に適したモードです。スローシャッター優先の撮影が行われます。

- シャッター
  スローシャッターモードで、最長約3秒。
- ストロボ使用時
  赤目軽減・強制発光

BW モノクロ

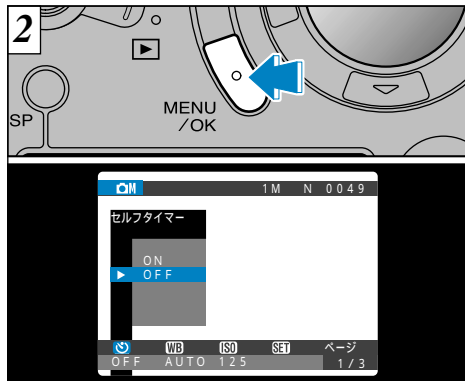
撮影シーンを限定せず、モノクロで撮影したい場合に使用します。

- ストロボ使用時
  オートストロボ・赤目軽減・強制発光・スローシンクロ

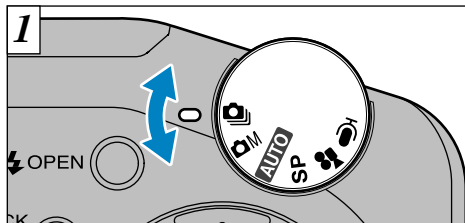
BW モノクロを除きマクロの設定はできません。

M マニュアル

モードダイヤルを回してセットします。

M マニュアル

設定を組み合わせて撮影できるモードです。

“ MENU/OK ”ボタンを押すと、撮影メニューが表示されます。撮影メニューについて、詳しくは56〜68ページをご参照ください。

“ Mマニュアル ”の工場出荷設定は、40ページをご参照ください。
工場出荷設定に戻すには、オールリセットしてください（➡90ページ）。

連写

モードダイヤルを回してセットします。

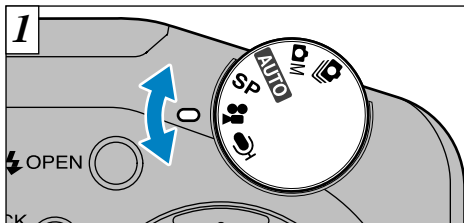
連写

最短約0.2秒間隔で最大3コマ連写できます。

撮影すると必ずプレビュー画面が表示されます。左から撮影順に画像が並びます。記録する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押します。記録しない場合は、“ BACK ”ボタンを押します。
また記録画像を選択することができます。詳しくは95ページをご参照ください。

- ストロボ撮影はできません。
- ピクセル/クオリティー設定にかかわらず、連写速度は一定です。

オートブラケティングが可能です(➡61ページ)。

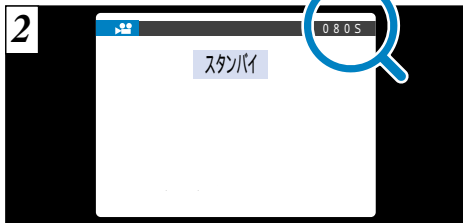
- ピント、露出は1コマ目の撮影時に決定され、途中で変化しません。
- スマートメディアに記録中は、“ カードに保存中 ”と表示されます。
- ファイル記録時間は、“ 4M ・NORMAL ”の画像で約7秒です。

ムービー（動画）

モードダイヤルを回してセットします。

ムービー（動画）

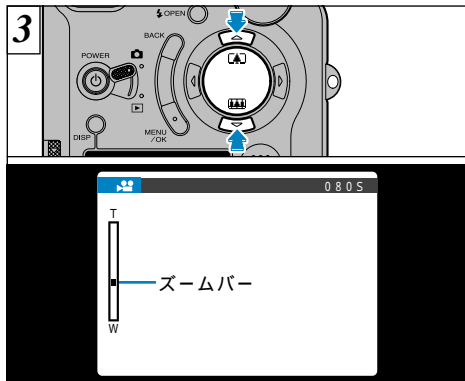
一回、最長80秒のムービー撮影モードです。

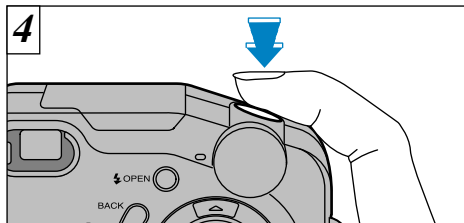
●撮影形式：Motion JPEG 形式（➡124ページ）
320×240ピクセル
10フレーム/秒
音声付き

- 音声が同時に記録されるので、指などでマイク（➡6ページ）をふさがないようご注意ください。
- スマートメディアの空き容量によっては、一回の撮影時間が80秒より短くなることがあります。
- 液晶モニターをOFFにすることはできません。
- FinePix4800Z以外のカメラでは再生できない場合があります。

液晶モニターに撮影可能時間と“スタンバイ”が表示されます。

■スマートメディア標準撮影可能時間

スマートメディア容量	撮影可能時間（秒）
MG-4S（4MB）	約23
MG-8S（8MB）	約47
MG-16S（16MB）	約94
MG-32S（32MB）	約191
MG-64S（64MB）	約385
MG-128S（128MB）	約774

＊スマートメディアをフォーマットした状態の撮影可能時間です。

ムービー撮影ではレンズが広角側に固定され、デジタルズームのみになります。“▲▼”ボタンでズームできます。液晶モニターに“ズームバー”が表示されます。

●デジタルズーム焦点距離
　約36mm〜約67.5mm相当(約1.875倍)

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

! シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
! ピントは約50cm〜無限遠の固定になります。
! 撮影中はピント、ホワイトバランスは固定ですが、露出はシーンに応じて自動的に変化します。

ホワイトバランスはシャッターボタンを全押しすると、自動的に設定されます。

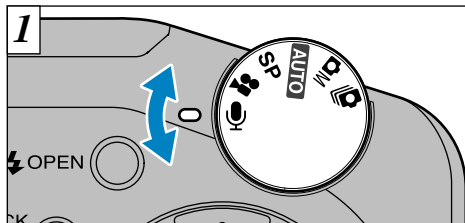
撮影中は、液晶モニター右上に残り時間をカウントダウン表示します。

撮影中にもう一度シャッターボタンを押すと撮影を終了し、スマートメディアへ記録します。

! 残り時間がなくなると自動的に撮影が終了し、スマートメディアに記録されます。

! 約80秒の動画(約25MB)のスマートメディアへの記録時間は、約11秒です。

! 撮影開始後すぐに終了しても、約3秒間だけ撮影されます。

3

ボイスレコーダー

モードダイヤルを回してセットします。

ボイスレコーダー

一回、最長30分の音声録音モードです。

●録音形式：WAVE形式（➡124ページ）

液晶モニター右上に録音可能時間、液晶モニター中央に録音経過時間と“ スタンバイ ”が表示されます。

! 指などでマイク（➡6ページ）をふさがないようご注意ください。

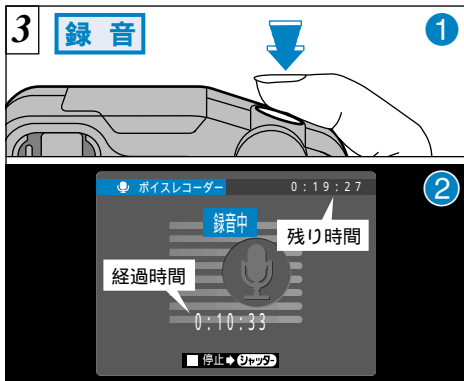
! スマートメディアの空き容量によっては、一回の録音時間が短くなることがあります。

レンズが出たままになるのを防ぐには、モードをセットしたあとに電源を入れます。

■スマートメディア標準録音可能時間

スマートメディア容量	録音可能時間（分）
MG-4S（4MB）	約8
MG-8S（8MB）	約16
MG-16S（16MB）	約33
MG-32S（32MB）	約67
MG-64S（64MB）	約135
MG-128S（128MB）	約272

＊スマートメディアをフォーマットした状態の録音可能時間です。

3 録 音

❶シャッターボタンを全押しすると録音が開始されます。

❷録音中は、液晶モニターに経過時間と残り時間をカウント表示し、セルフタイマーランプが点滅します。

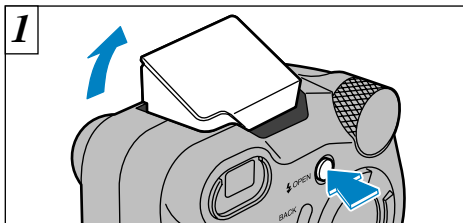
4 停 止

録音中にもう一度シャッターボタンを押すと録音を終了します。

3

! シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
! 残り時間がなくなると自動的に録音が終了します。

! 録音開始後、すぐに終了しても約3秒間だけ録音されます。

ストロボ撮影

"⚡OPEN"ボタンを押してストロボをポップアップします。

●ストロボ撮影可能距離（AUTO時）
広角側：約0.2m〜約3.5m
望遠側：約0.2m〜約2m

"▶"を押してストロボの設定を選びます。"▶"を押すたびに、ストロボの設定（A⚡・👁・⚡・S⚡）が変わります。

! カメラを構えるとき、ポップアップしたストロボを押さえないでください。

! 撮影モード"AUTO"の場合、オートストロボの使用をおすすめします。

! ストロボをポップアップしたときや、ストロボ撮影をした場合、充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときファインダーランプが橙色の点滅をします。

! ストロボの設定は撮影モードにより制限されます（➡40ページ）。

! マニュアルフォーカス（➡63ページ）使用中は、ストロボの設定を変えられません。

A⚡ オートストロボ

一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

赤目軽減ストロボ

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボがプレ発光し、次に撮影のためのストロボが発光します。

3

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボを積極的にご利用ください。赤目軽減ストロボを使用するとともに、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。

ストロボ撮影

ϟ 強制発光ストロボ

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。明るいところでもストロボ撮影が行われます。

Sϟ スローシンクロ

スローシャッターでストロボ発光します。夜景と人物をきれいに撮影できます。

! 明るい撮影シーンでは露出オーバーになることがあります。

! スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

背景の夜景をより明るく撮りたい場合は、“ SP ” モードの“ ☾ ”(夜景)の使用をおすすめします (➡42ページ)。

ストロボ発光禁止

ストロボを閉めると発光禁止になります。
室内照明を利用しての撮影、ガラス越しの撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。この場合、オートホワイトバランス（➡125ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮影できます。

ストロボを閉めて発光禁止にします。表示パネルに“ ”が表示され、ストロボ撮影できません。

●下記モードでは“ ”は表示されませんがストロボ撮影できません。
- 風景（➡42ページ）
- ムービー（➡45ページ）
- 連写（➡44ページ）

3

! 暗い場所でストロボ発光禁止で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
! 手ブレ警告については、27、116ページをご参照ください。

マクロ（近距離）

“ AUTO ・ BW ・ [連写] ・ [M] ”の撮影モードで設定できます。
マクロを設定すると近距離撮影ができます。

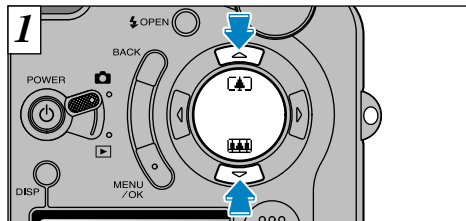
●撮影可能距離：約20cm〜約80cm

“ ◀ ”を押すたびに“ [マクロOFF] （マクロOFF）”と“ [マクロ] ”が切り換わります。
マクロ使用中は、表示パネルと液晶モニターに“ [マクロ] ”が表示されます。

! マニュアルフォーカス（➡63ページ）使用中は、マクロの設定を変えられません。
! 撮影の状況に応じてストロボの設定をしてください（➡50ページ）。
! ストロボが明るすぎる場合は、ストロボ（光量補正）を行ってください（➡65ページ）。
! 暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

マクロでファインダーを使うと、ファインダー窓とレンズの位置が違うため、実際に見える範囲と写る範囲にズレが生じます。そのため、液晶モニターを使った撮影をおすすめします。

! 液晶モニターが自動的にONになります。
! マクロ撮影は、次のとき自動的に解除されます。
- 撮影モードを切り換えたとき
- 電源が切れたとき

デジタルズーム

ピクセル（画像サイズ）設定が“ 4M ”以外ではデジタルズームできます。ただし、液晶モニターを使用した撮影でのみ有効です。

●デジタルズームにする
光学ズーム（テレ端）に続いてもう一度、“ ▲ ”（望遠）を押します。

●光学ズームに戻る
デジタルズーム（ワイド端）に続いてもう一度、“ ▼ ”（広角）を押します。

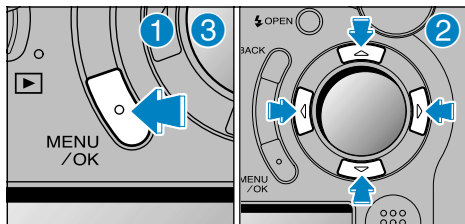
液晶モニターには“ ズームバー ”が表示されます。液晶モニターの映像が確認しにくい場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

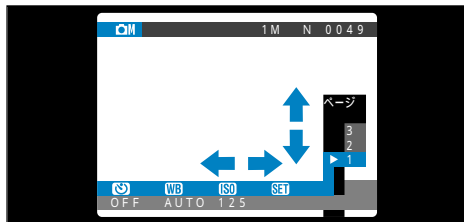
●デジタルズーム焦点距離（35mmカメラ換算）

2M	：約108mm〜約162mm相当（約1.5倍）
1M	：約108mm〜約203mm相当（約1.88倍）
VGA	：約108mm〜約405mm相当（約3.75倍）
ムービー	：約36mm〜約67.5mm相当（約1.875倍）

! “ 4M ”では、デジタルズームはできません。
! デジタルズームにすると、液晶モニターの映像がなめらかに変化しなくなります。
! ピクセル（画像サイズ）設定の変更（➡92ページ）。

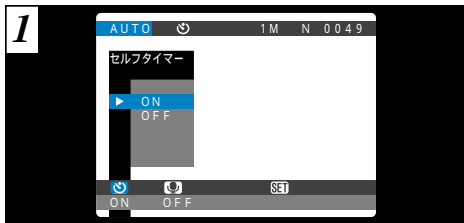
! 光学ズームは約36mm〜約108mm相当（35mmカメラ換算）です。

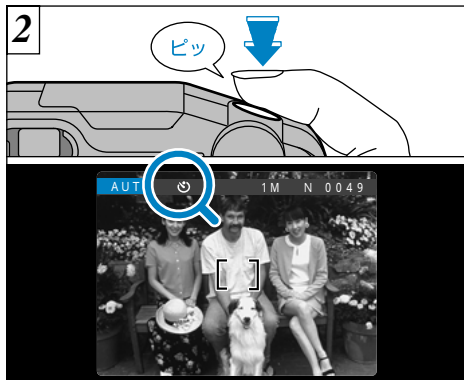
撮影メニューの操作

❶“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。
❷“ ◀▶ ”でメニューを選びます。“ ▲▼ ”で設定を変更します。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押して決定します。

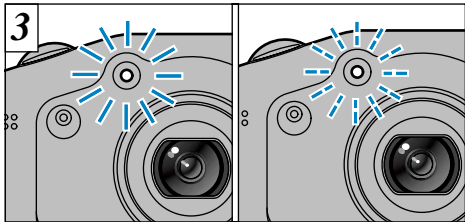
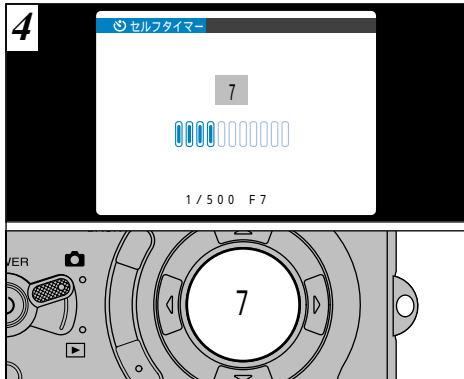
ページの切り換え

“ M マニュアル ”モードでは、メニューの切り換えが必要です。
液晶モニター右端の“ ページ ”で切り換えます。

■撮影メニュー

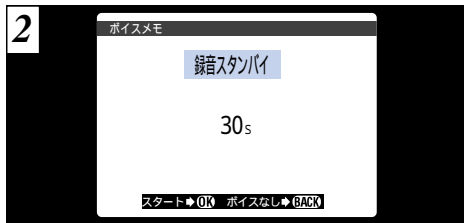
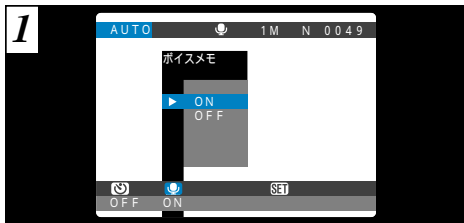
ページ	項　目
1	・WB・ISO・SET
2	MF・S・・
3	・[O]

! 撮影モードにより設定可能撮影メニューは変わります。詳しくは40ページをご参照ください。

セルフタイマー

“ AUTO ・SP ・M・ ”の撮影モードで設定できます。
約10秒間のセルフタイマー撮影です。撮影者自身を撮影する場合などに使用します。

被写体にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを押すとAFフレーム内に見えるものにピントが合い、セルフタイマーがスタートします。

- AF/AEロック撮影も可能です（➡29ページ）。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケになったり、適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

セルフタイマーランプが約5秒間点灯したのち点滅に変わり、さらに約5秒後に撮影されます。

撮影されるまでの間、液晶モニターと表示パネルにカウントダウン表示されます。
セルフタイマーは撮影ごとに自動的に解除されます。

❗スタートしたセルフタイマー撮影は、“ BACK ”ボタンを押すと解除できます。

❗多重露光時は、セルフタイマーは解除されません。
❗液晶モニターがOFFの場合でも、表示パネルで確認できます。

ボイスメモ

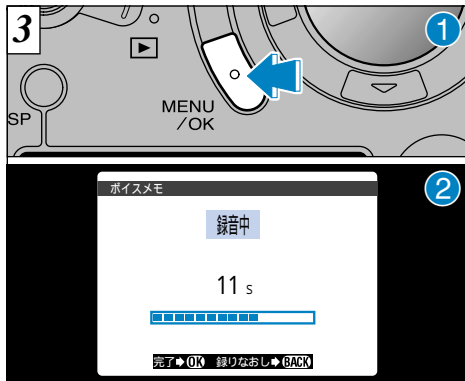
“ AUTO ”の撮影モードで設定できます。
撮影直後にその画像に対して最大30秒間の音声メモ（コメント）を付けることができます。

●録音形式：WAVE 形式（➡124ページ）
　音声ファイルサイズ：約240KB（30秒録音時）

通常どおり撮影します。続けて“ 録音スタンバイ ”と液晶モニターに表示されます。

❗スマートメディアの空き容量によっては、録音時間が30秒より短くなることがあります。

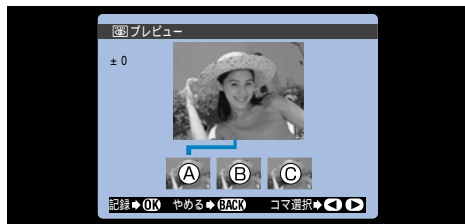
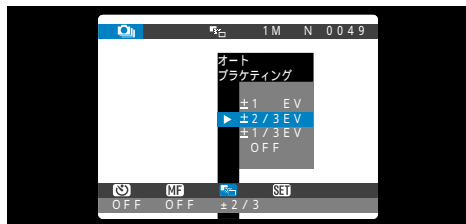
❗液晶モニターをOFFにしても、ボイスメモで撮影すると自動的にONになります。録音終了後、OFFに戻ります。

❗録音しない場合は“ BACK ”ボタンを押します。ただし画像は記録されます。

❶“ MENU/OK ”ボタンを押すと録音がスタートします。
❷録音中は液晶モニターに残り時間が表示され、セルフタイマーランプが点滅します。

30秒間録音すると、液晶モニターに“ 録音終了 ”と表示されます。
完了する場合 :“ MENU/OK ”ボタンを押します。
録り直しする場合 :“ BACK ”ボタンを押します。

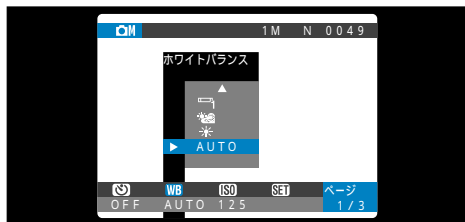
カメラ前面のマイク(➡6ページ)に向かって録音してください。約20cm離れると、うまく録音できます。

! 途中で完了する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押してください。

オートブラケティング

“ ”の撮影モードで設定できます。
同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。自動的に設定値きざみで適正・オーバー・アンダーの露出で3コマ連続して撮影します。

- 設定値は3種類(±1/3・±2/3・±1EV)です。EVについては124ページをご参照ください。

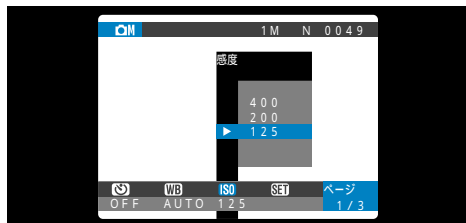
撮影するとプレビュー画面が表示されます。Ⓐが適正、Ⓑがオーバー、Ⓒがアンダーです。記録する場合は“MENU/OK”ボタンを押します。記録しない場合は“BACK”ボタンを押します。
また記録画像を選択することができます。詳しくは95ページをご参照ください。

- ストロボ撮影はできません。
- 必ず3コマの画像が撮影されます。ただし、スマートメディアに3コマ分の空き容量がない場合は撮影できません。
- スマートメディアに記録中は“カードに保存中”と表示されます。
- ファイル記録時間は“4M・NORMAL”の画像で約7秒です。

WB ホワイトバランス

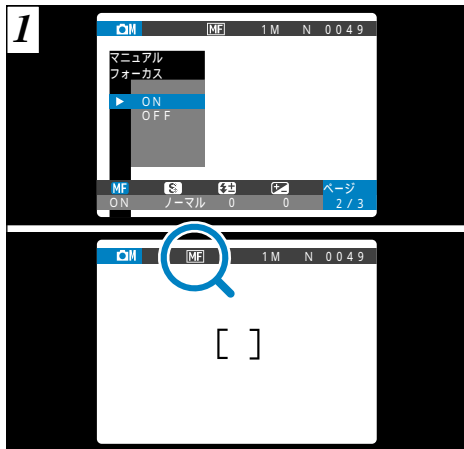
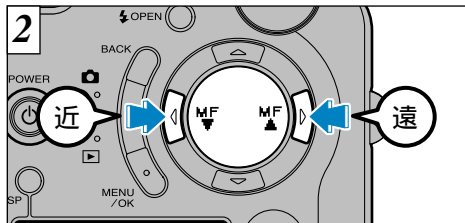
“ M ”の撮影モードで設定できます。
撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。
ホワイトバランスについては125ページをご参照ください。

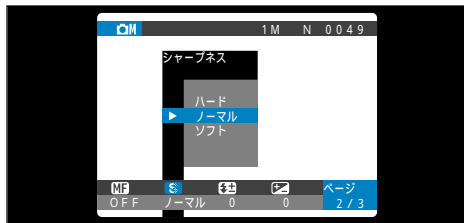
AUTO ：自動調整
（光源の雰囲気を残した撮影）
：晴れた屋外での撮影
：日陰での撮影
1 ：昼光色蛍光灯下での撮影
2 ：昼白色蛍光灯下での撮影
3 ：白色蛍光灯下での撮影
：電球、白熱灯下での撮影

＊ストロボ発光時は、ホワイトバランス設定は無効になりますので、意図した撮影の場合ストロボを押し下げて発光禁止（➡53ページ）にしてください。

撮影メニュー ISO 感度

“ M ”の撮影モードで設定できます。
室内の撮影などで、ストロボを使わずに明るく撮影したい場合や、高速シャッターを切りたいとき（手ブレ防止など）に使用します。

●設定値：125・200・400

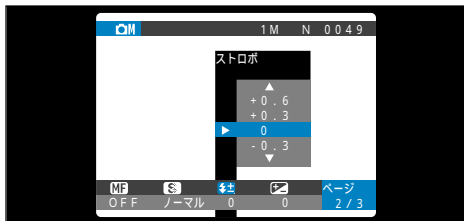
撮影メニュー MF マニュアルフォーカス

“ ・ M ・ ”の撮影モードで設定できます。
AFでピントが合いにくい場合や、ピントを固定して撮影したいときに使用します。
“ ON ”にすると液晶モニターに、“ MF ”マークが表示されます。

ピントは“◀”(MF▼)を押すと近くに、“▶”(MF▲)を押すと遠くに調節できます。ピントの確認は液晶モニターで行ってください。

! マニュアルフォーカス“ ON ”では、マクロ・ストロボの設定が変更できませんので、先にマクロ (➡54ページ)・ストロボ (➡50ページ) の設定を行ってください。

“ M ”の撮影モードで設定できます。
輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

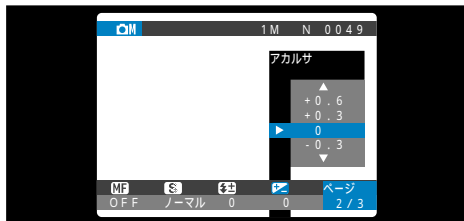
●ハード：
輪郭を強調します。
建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

●ノーマル：
通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

●ソフト：
輪郭をソフトにします。
人物などソフトにしたい撮影に最適です。

撮影メニュー ストロボ(光量補正)

“ M ”の撮影モードで設定できます。
ストロボ光が届かない(薄暗くなる)場合や、近距離でストロボ撮影する場合など、適正な明るさにならないときに使用します。

●補正範囲：±2段
(−0.6EV〜+0.6EV、約0.3 EVステップ)
EVについては124ページをご参照ください。

撮影メニュー アカルサ(露出補正)

“ M ”の撮影モードで設定できます。
被写体と背景のコントラスト(明暗の差)がきわめて大きい場合など、適正な明るさ(露出)が得られないときに使用します。

●補正範囲：11段
(−1.5EV〜+1.5EV，約0.3EVステップ)
EVについては124ページをご参照ください。

3

次のような状態では、無効になります。
- オートまたは赤目軽減でストロボが発光したとき
- 強制発光で撮影シーンが暗いとき

撮影メニュー アカルサ（露出補正）

◆次のような被写体のとき効果があります◆

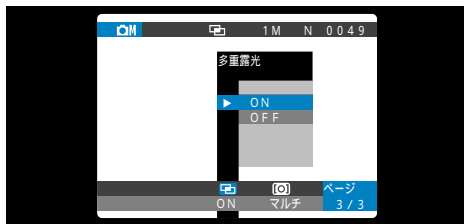
＋（プラス）補正のめやす

● 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写
：＋1.5EV
● 逆光の人物撮影：＋0.6〜＋1.5EV
● スキー場などの明るい場面や反射の強い場合：＋0.9EV
● 液晶モニター内を空の部分が大きく占める場合
：＋0.9EV

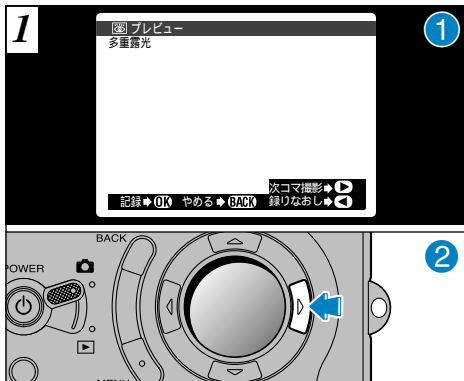
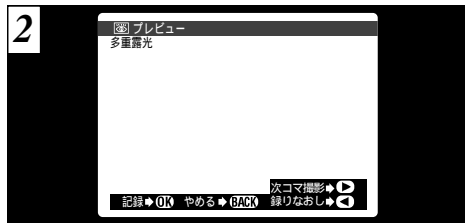
－（マイナス）補正のめやす

● スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合：－0.6EV
● 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写
：－0.6EV
● 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：－0.6EV

! 次のような状態では、無効になります。
● オートまたは赤目軽減でストロボが発光したとき
● 強制発光で撮影シーンが暗いとき

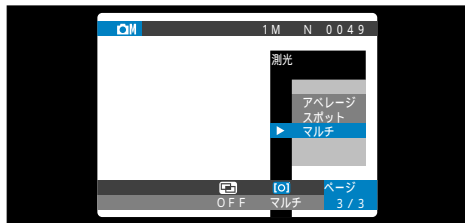
撮影メニュー 多重露光

“ M ”の撮影モードで設定できます。
撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。通常得られない画像を撮影できます。

! 撮影した画像が露出オーバーになる場合は、アカルサ（露出補正）でマイナス補正することをおすすめします。
! 多重露光では光学ズームのみになり、デジタルズーム（➡55ページ）は機能しません。

多重露光の回数に制限はありません。

❶撮影するとプレビュー画面が表示されます。
❷“ ▶ ”を押して、次のコマ撮影に移行します。

次の撮影（多重露光）を行うと、画像が重なってプレビュー表示されます。

●さらに多重露光するには ：“ ▶ ”を押します。
●画像を記録するには ：“ MENU/OK ”を押します。
●ひとつ前に戻るには ：“ ◀ ”を押します。
●記録しないで止めるには ：“ BACK ”ボタンを押します。

3

! 撮影画像表示の設定にかかわらず必ずプレビューされます。

“ M ”の撮影モードで設定できます。
被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンでマルチで思いどおり測光されない場合に使用します。

●アベレージ：
画面全体を平均して測光します。

●スポット：
画面中央部の露出が最適になるように測光します。

●マルチ：
自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。

“ ・ AUTO ・ SP ・ ”時はマルチに固定されています。

◆次のような被写体のとき効果があります◆

● アベレージ
構図や被写体により露出が変化しにくい特長があります。白や黒などの服を着た人物や、風景の撮影などに有効です。

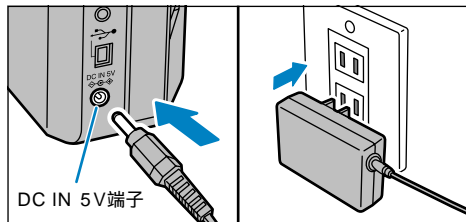
● スポット
明暗差の大きい被写体で、ねらったものに正確に露出を合わせたいときに有効です。

● マルチ
シーン自動認識により被写体を分析し、幅広い条件で適正な露出が得られます。通常はマルチの使用をおすすめします。

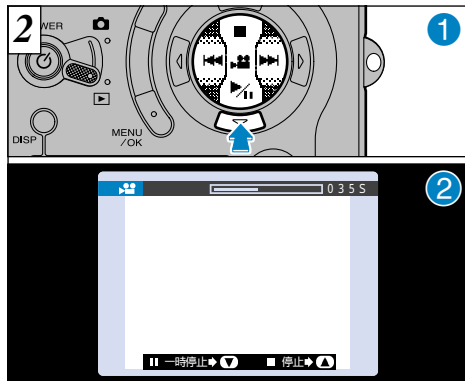
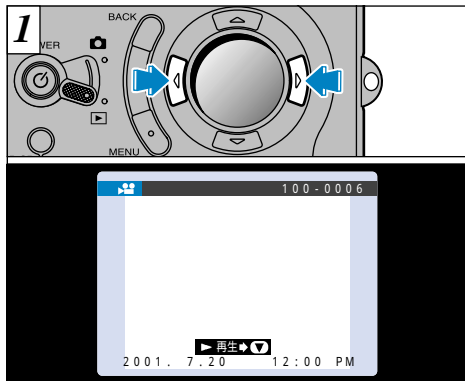
応用編 再生では

応用編 再生では、モードレバーを“ ▶ ”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

■再生モードメニュー一覧

再生しているファイル	静止画	動画	音声
設定可能再生メニュー	消去（76ページ） オートプレイ（78ページ） プロテクト（79ページ） DPOFプリント予約（83ページ） SET 各種設定（90ページ）	消去（76ページ） オートプレイ（78ページ） プロテクト（79ページ） — SET 各種設定（90ページ）	消去（76ページ） — プロテクト（79ページ） — SET 各種設定（90ページ）

コンセントが近くにある場合は、静止画やムービーを再生している最中に電源が切れないように、ACパワーアダプター AC-5Vでの使用をおすすめします（➡17ページ）。

4

ムービー（動画）再生

“◀▶”でムービーファイルを選びます。

❶“▼”を押すと再生されます。
❷液晶モニターに再生時間とバーが表示されます。

! マルチ再生ではムービー再生できません。“DISP”ボタンで通常再生にしてください。

静止画に比べ、ひと回り小さく表示されます。

! スピーカーをふさがないでください。
! 音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡91、93ページ）。
! 高輝度の被写体を撮影した場合、再生時に縦に白いスジが入ることがありますが故障ではありません。

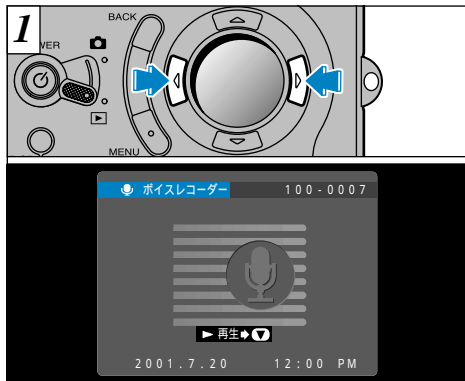
■ムービー再生操作方法

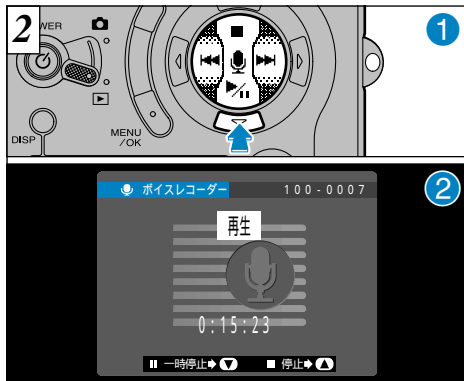
	操　　作	説　　明
再生		再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除		再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止		再生を停止します。
早送り/巻き戻し		再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。
コマ送り	一時停止中	●一時停止中に“◀”または“▶”を押すたびに1コマずつ送られます。 ●押し続けると速く送られます。

＊パソコンでの再生については100ページをご参照ください。

◆再生できるムービーファイルについて◆

本機で記録したムービーファイル、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディアに記録した80秒以内のムービーファイルが再生できます。記録時間が80秒を越えるムービーファイルは“ READ ERROR ”表示し、再生することは出来ません。

4

ボイスレコーダー再生

“ ◀ ▶ ”でボイスファイルを選びます。

❶“ ▼ ”を押すと再生されます。
❷液晶モニターに再生時間が表示されます。

❗マルチ再生ではボイスレコーダー再生できません。
“ DISP ”ボタンで通常再生にしてください。

“ マイク ”の画像で表示されます。

❗スピーカーをふさがないでください。
❗音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡91、93ページ）。

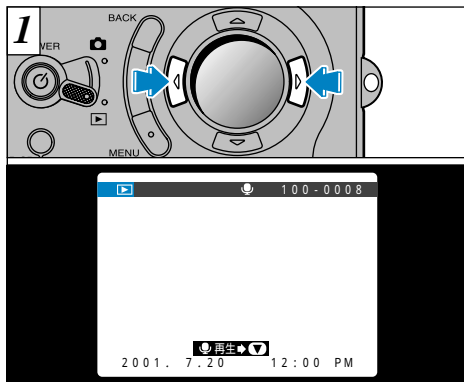
■ボイスレコーダー再生操作方法

	操　　作	説　　明
再生		再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除		再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止		再生を停止します。
早送り/巻き戻し		●再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。 ●押し続けると速く送られます。
飛ばし再生		一時停止中に“◀”または“▶”を押すたびにスキップします。 ※おおよその再生位置がめやすとなるバーが表示されます。

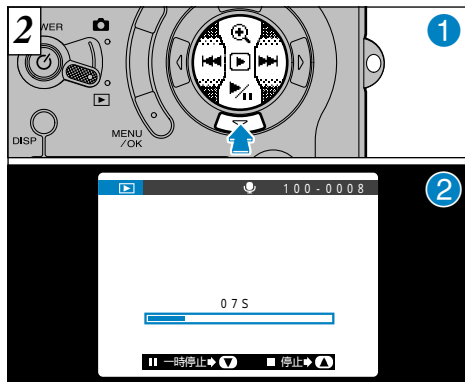
＊パソコンでの再生については100ページをご参照ください。

◆再生できるボイスファイルについて◆

本機で記録したボイスファイル、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディアに記録した30分以内のボイスファイルが再生できます。記録時間が30分を越えるボイスファイルは“ READ ERROR ”表示し、再生することは出来ません。

ボイスメモ再生

“ ◀ ▶ ”でボイスメモ付き画像ファイルを選びます。

❶“ ▼ ”を押すと再生されます。
❷液晶モニターに再生時間とバーが表示されます。

❗マルチ再生ではボイスメモ再生できません。“ DISP ”ボタンで通常再生にしてください。

“ 🎤 ”のアイコンで表示されます。

❗スピーカーをふさがないでください。
❗音が聞き取りにくい場合は、音量調節をしてください（➡91、93ページ）。

■ボイスメモ再生操作方法

	操　　作	説　　明
再生		再生が終わると自動的に停止します。
一時停止/解除		再生中に操作すると一時停止します。 一時停止中に操作すると一時停止を解除します。
停止		再生を停止します。
早送り/巻き戻し		再生中に操作すると早送り/巻き戻しします。

＊ボイスメモでは飛ばし再生はできません。
＊パソコンでの再生については100ページをご参照ください。

◆再生できるボイスメモファイルについて◆

本機で記録したボイスメモファイル、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディアに記録した30秒以内のボイスメモファイルが再生できます。

1コマ・全コマ消去/フォーマット

1コマ消去

選んだファイルだけを消去します。

❗ プロテクト（➡79、81ページ）したファイルは消せません。

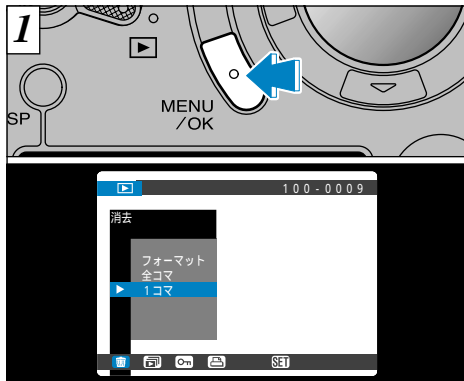
全コマ消去

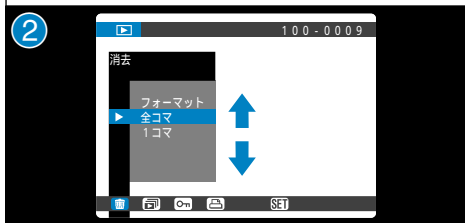
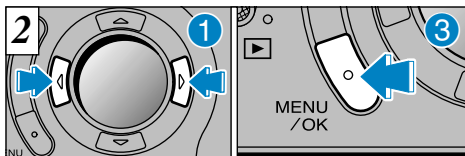
プロテクトしたファイル以外をすべて消去します。

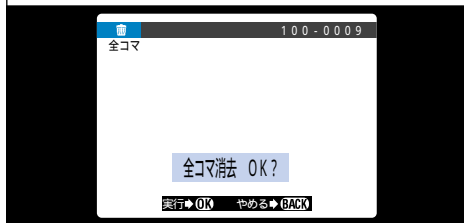
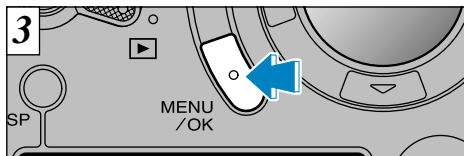
フォーマット

すべて消去してこのカメラ用に作り直します（スマートメディアの初期化）。

❗ プロテクトしたファイルも消えます。

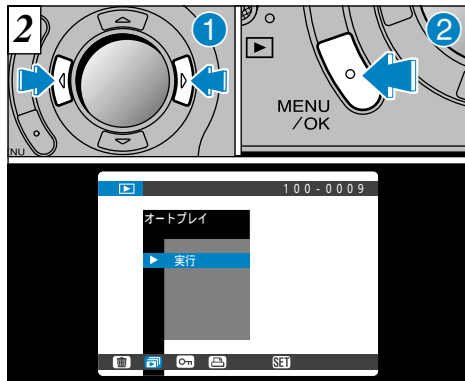
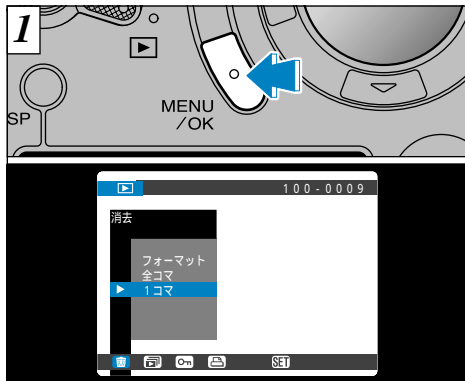
❗“CARD ERROR”“CARD NOT INITIALIZED”“READ ERROR”“WRITE ERROR”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面（金色の部分）を乾いた柔らかい布などでよくふいてから、再度セットしてください。また、フォーマットが必要な場合があります。

“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

❗ メニューを終了するには“BACK”ボタンを押してください。

❶“ ◀▶ ”で“ 🗑 ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 1コマ ”か“ 全コマ ”か“ フォーマット ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

フォーマットするとすべて消去されます。

実行を確認する画面が表示されます。
全コマ消去かフォーマットを実行するには“ MENU/OK ”ボタンを押します。
1コマ消去ではファイルを“ ◀▶ ”で選んでから、“ MENU/OK ”ボタンを押します。

❗ やめる場合は“ BACK ”ボタンを押してください。
❗“ プリント予約されています全コマ消去しますか？ ”が表示された場合は、DPOF指定されています。“ MENU/OK ”ボタンを押すと画像を消去します。

4

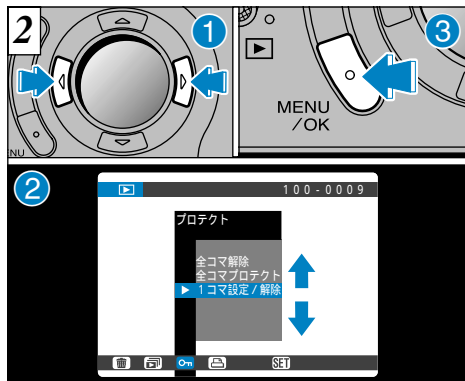
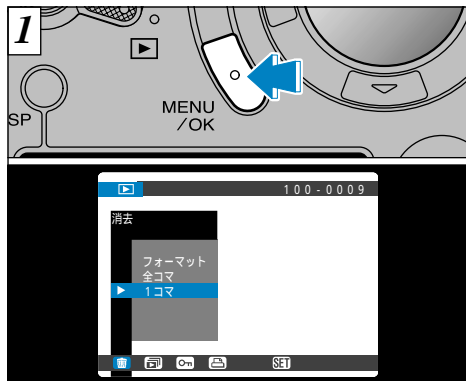
オートプレイ（自動再生）

“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。

①“ ◀▶ ”で“ ”を選びます。
②“ MENU/OK ”ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。

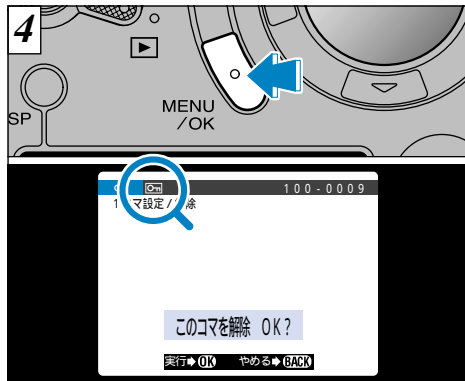
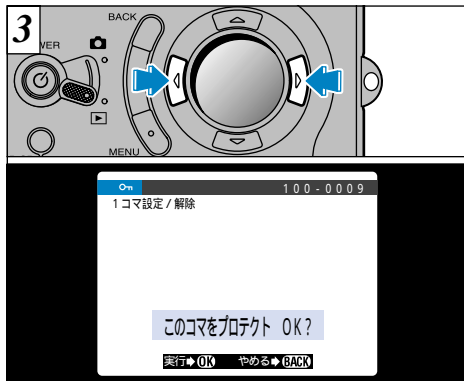
! オートプレイ中はオートパワーオフしません。
! ムービー、ボイスメモは自動的に再生が始まります。再生が終わると次のコマに進みます。ボイスレコーダーは再生しません。
!“ DISP ”ボタンを一回押すと、液晶モニターに再生コマNo.が表示されます。
! 途中でやめる場合は、“ BACK ”ボタンを押してください。

再生メニュー 1コマプロテクト設定/解除

“ MENU/OK ”ボタンを押すとメニューが表示されます。

❶“ ◀▶ ”で“ ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 1コマ設定/解除 ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

❗ 画像を選ぶときはマルチ再生（➡36ページ）すると便利です。

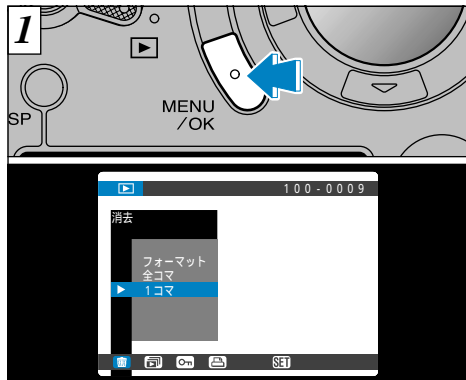
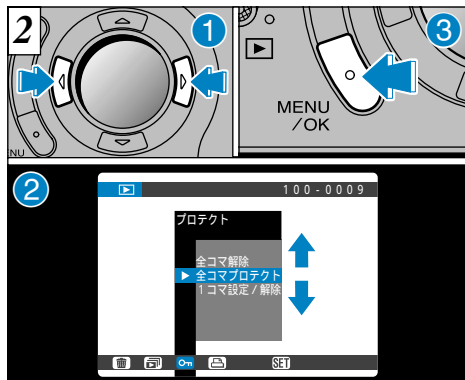
プロテクトとは、誤って消去しないように設定することです。ただし“ フォーマット ”するとすべて消去されます（➡76ページ）。

4

“◀▶”でプロテクトしたいファイルを選びます。

“MENU/OK”ボタンを押すとプロテクトされ、液晶モニターに“ ”が表示されます。
プロテクトを解除するには、もう一度“MENU/OK”ボタンを押します。

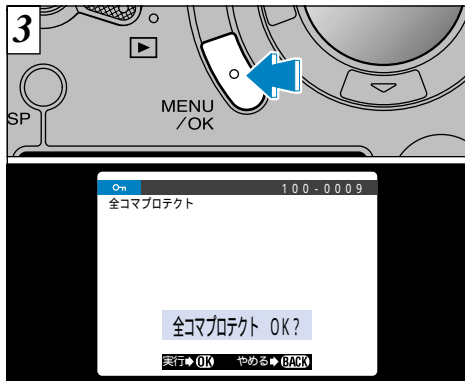
! プロテクト操作を終了するには“BACK”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“BACK”ボタンを押してください。

プロテクトを続けるには、3からの操作を繰り返します。

再生メニュー 全コマプロテクト設定/解除

“ MENU/OK ”ボタンを押すとメニューが表示されます。

❶“ ◀ ▶ ”で“ ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 全コマプロテクト ”が“ 全コマ解除 ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

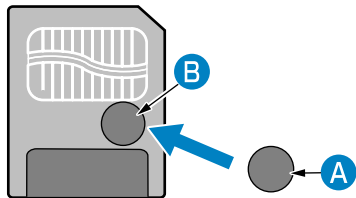
プロテクトされていても“ フォーマット ”するとすべて消去されます（➡76ページ）。

4

全コマプロテクト設定/解除

実行を確認する画面が表示されます。実行するなら“ MENU/OK ”ボタンを押します。

! プロテクト操作を終了するには“ BACK ”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

スマートメディア™の誤記録防止について

ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。

＊必ず専用のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。はがしたシールの再利用はできません。
＊シールの端で手を切らないようにご注意ください。
＊シールが汚れていると、誤記録防止されないことがあります。

DPOFについて

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をスマートメディア™などに記録するときの形式です。

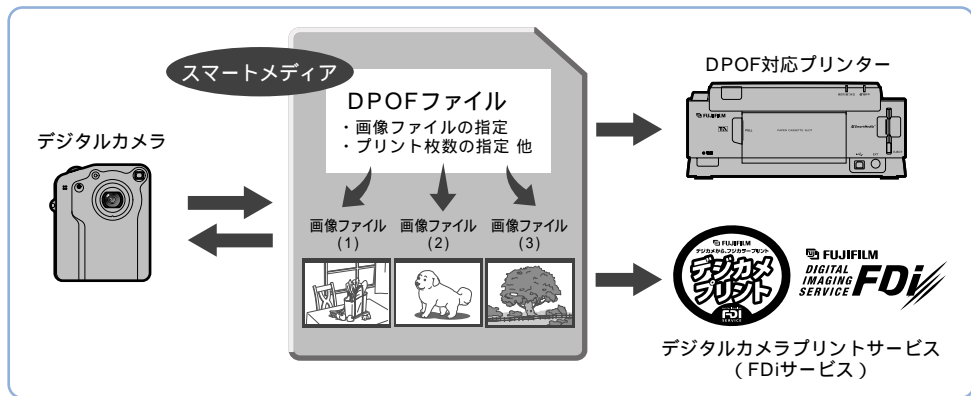
デジタルカメラ

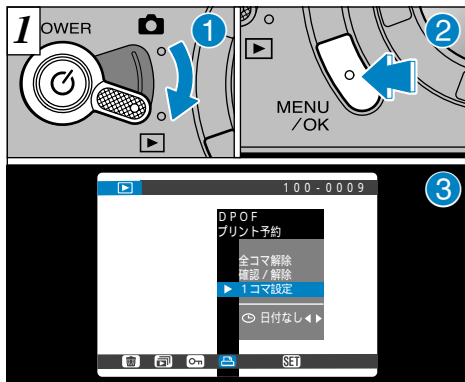
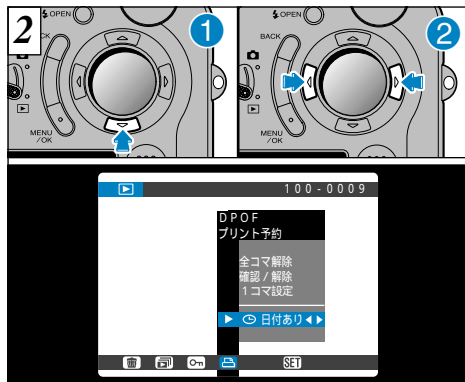
スマートメディア

DPOFファイル
・画像ファイルの指定
・プリント枚数の指定 他

画像ファイル（1） 画像ファイル（2） 画像ファイル（3）

DPOF対応プリンター

デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作でスマートメディア™に記録することができます。
- DPOF情報を記録したスマートメディア™を、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

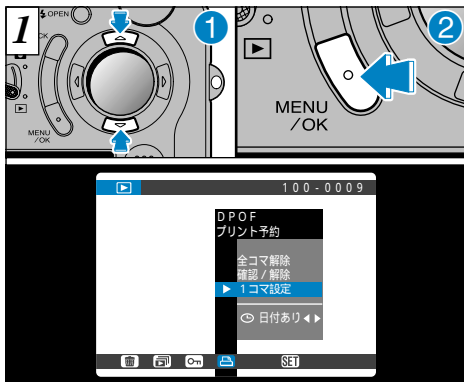
再生メニュー 日付設定

プリントに撮影した日付を入れるか入れないかを選べる機能です。
❶モードレバーを“ ▶ ”に合わせます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。
❸“ ▶ ”を押して“ ”を選びます。

❶“ ▼ ”で“ 日付 ”を選びます。
❷“ ◀ ▶ ”を押すと“ 日付あり ”か“ 日付なし ”が設定できます。その後、設定を変更するか電源を切るまで有効です。

❗ムービー、ボイスレコーダーはDPOF指定できません。

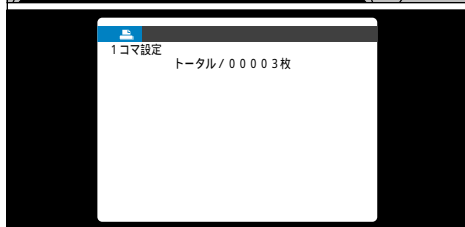
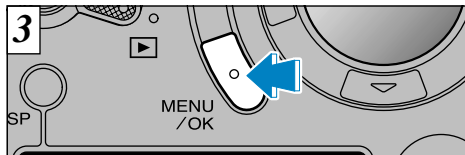
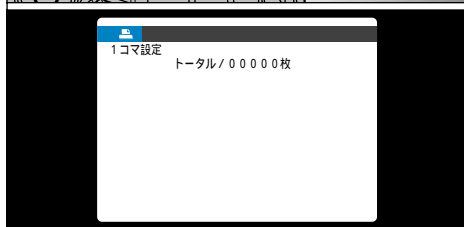
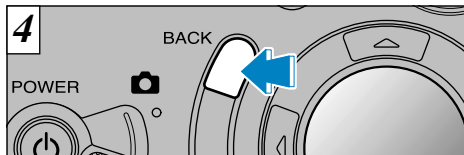
❗他の設定の前に必ず日付あり/なしの設定を行ってください。

1コマ設定

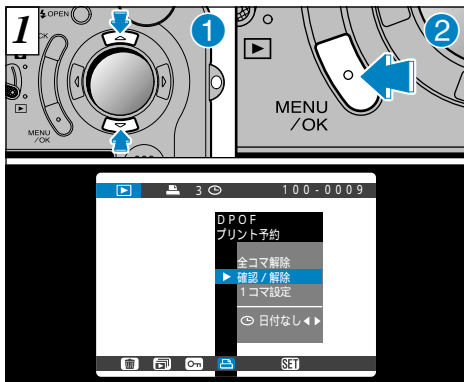
❶“▲▼”で“1コマ設定”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

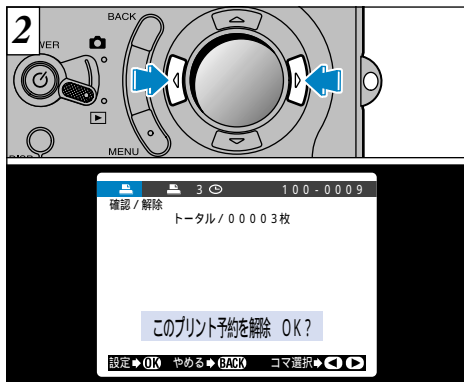
❶“◀▶”を押して設定するコマを表示させます。
❷“▲▼”でプリント枚数を指定します。
確定したコマには“🖶とプリント枚数”、日付設定ありの場合は“◷”が表示されます。

❗“◀▶”でコマを送ると、自動的に設定が決定されます。

1コマ設定を続けるには、❶❷の操作を繰り返します。

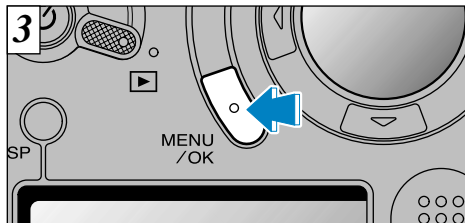
❗1コマ設定の前に必ず日付あり/なしを設定してください。

〈実行する場合〉
設定が終わったら、必ず“ MENU/OK ”ボタンを押して決定してください。液晶モニターにトータル枚数が表示され、メニューに戻ります。

〈キャンセルする場合〉
“ BACK ”ボタンを押すと、選択中のコマの設定のみキャンセルされます。選択中のコマ以外の設定はキャンセルされません。

！指定できるプリント枚数は1コマにつき99枚までです。また、同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。

！“ トータル ”は指定したプリント枚数の合計です。

確認/解除

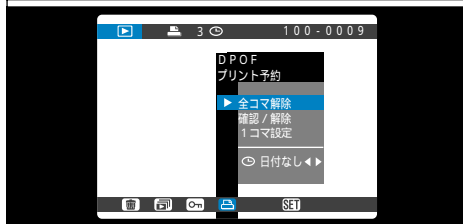
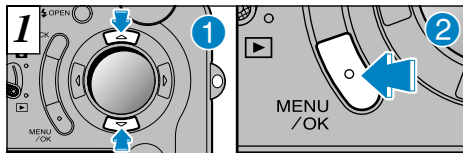
❶“▲▼”で“確認/解除”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

“◀▶”を押すと、プリント枚数設定をしたコマだけが再生され、各コマの設定を確認できます。

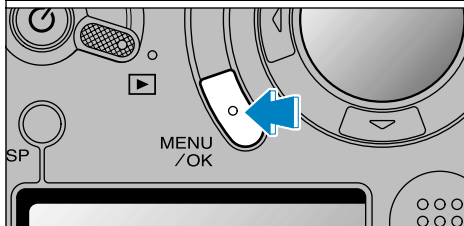
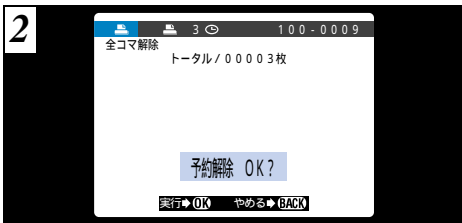
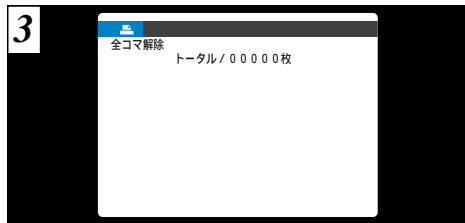
! 画像を選ぶときはマルチ再生（➡36ページ）すると便利です。

! 確認/解除をやめたい場合は、“BACK”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“BACK”ボタンを押してください。

プリント設定を解除するには解除したい画像を表示し、“ MENU/OK ”ボタンを押します。
プリント設定の解除が終わると次の画像が再生され“ このプリント予約を解除 OK? ”が表示されます。

! すべてのプリント設定が解除されている場合“ トータル ”は“ 00000枚 ”になり、背景が青い画面になります。

! 確認/解除をやめたい場合は、“ BACK ”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

プリント設定の解除を続けるには、2からの操作を繰り返します。

❶“ ▲▼ ”で“ 全コマ解除 ”を選びます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

! ムービー、ボイスレコーダー再生時はDPOFメニューは表示されません。

実行を確認する画面が表示されます。実行するなら“ MENU/OK ”ボタンを押します。

液晶モニターにトータル枚数“ 00000枚 ”が表示され、その後メニューに戻ります。

4

各種設定編では

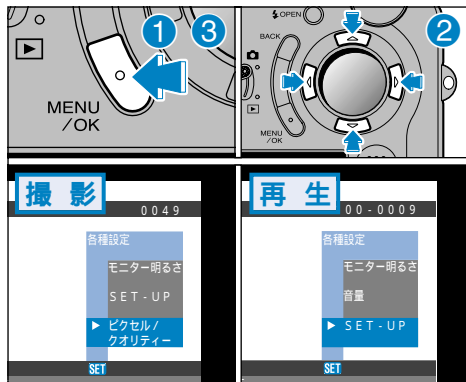
設定編では、撮影・再生モードのメニュー“ SET 各種設定 ”で行える機能をご紹介します。

■各種設定一覧

静止画撮影時	ムービー撮影/ボイスレコーダー録音時	再生時
ピクセル/クオリティー（92ページ） SET-UP モニター明るさ（93ページ）	SET-UP モニター明るさ（93ページ）	SET-UP 音量（93ページ） モニター明るさ（93ページ）

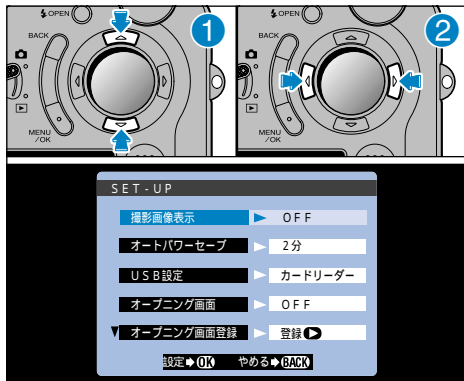
■SET-UPメニュー一覧

項　目	表　示	工場出荷時	内　　容
撮影画像表示	OFF/ON/プレビュー	OFF	詳しくは94ページ参照。
オートパワーセーブ	2分/5分/OFF	2分	詳しくは96、125ページ参照。
USB設定	カードリーダー/PCカメラ	カードリーダー	詳しくは99ページ参照。
オープニング画面	ON/OFF	OFF	電源投入時に、登録したオープニング画面を表示するかしないかを設定できます。
オープニング画面登録	登録 ▶	—	詳しくは97ページ参照。
日時設定	設定 ▶	—	詳しくは21ページ参照。
コマNO.メモリー	ON/OFF	OFF	詳しくは98ページ参照。
ビープ♪	HIGH/LOW/OFF	HIGH	操作したときの“ ピッ ”の音量を設定できます。
📷 LCDモニター	ON/OFF	ON	モードレバーを“ 📷 ”にしたときに、自動的に液晶モニターをONにするかOFFにするか設定できます。
オールリセット	実行 ▶	—	日時設定とオープニング画面登録、カメラカスタマイズを除く、すべての設定（撮影、再生メニュー含む）を工場出荷設定にリセットします。

各種設定メニューの操作

❶“ MENU/OK ”ボタンを押して、メニューを表示します。

❷“ ◀ ▶ ”で“ SET ”を選び、“ ▼▲ ”で項目を選びます。

❸“ MENU/OK ”ボタンを押して、各設定に移行します。

SET-UPの操作

“ SET-UP ”を選んだ場合、SET-UP画面が表示されます。

❶“ ▼▲ ”で項目を選びます。

❷“ ◀ ▶ ”で設定を変更します。“ MENU/OK ”ボタンを押して設定を終了します。

❗“ オープニング画面登録 ”“ 日時設定 ”“ オールリセット ”は“ ▶ ”を押します。

5

SET ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）

4種類のピクセル（画像サイズ）と、3種類のクオリティー（圧縮率）の組み合わせを選べます。目的に応じた設定をしてください。

プリントをきれいに仕上げるには

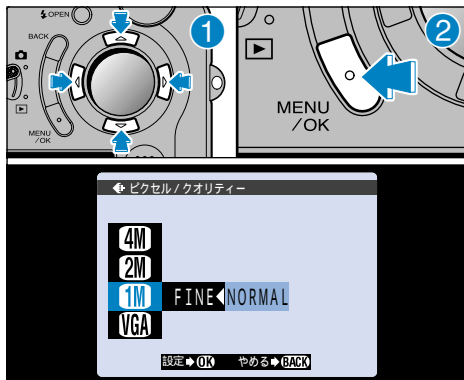
できるだけ大きな画像サイズで、低い圧縮率（FINEかNORMAL）を使用します。ただし、1コマのファイル容量が大きくなるため、撮影可能枚数は少なくなります。

インターネット用途で使用するには

パソコンの画面で見ることが目的なので、小さな画像サイズ（VGAなど）を使用します。この場合、1コマのファイル容量は小さいため、撮影可能枚数は多くなります。

クオリティー（圧縮率）について

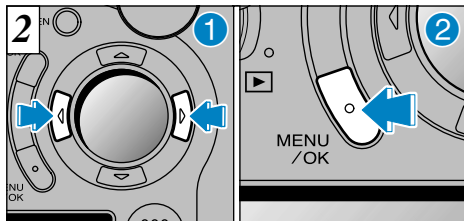
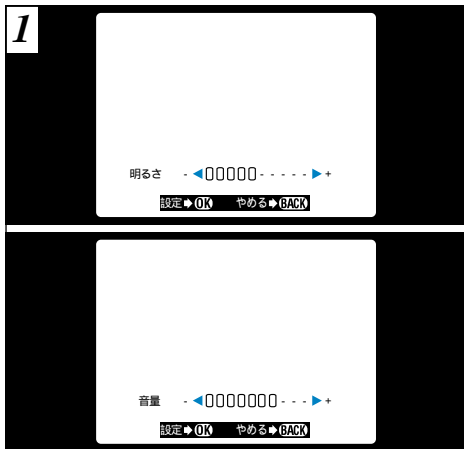
画質を優先する場合は“FINE”を、枚数を優先する場合は“BASIC”を選んでください。
通常は、“NORMAL”で十分な画質が得られます。

! ピクセルとクオリティーの組み合わせは、全部で8種類になります（➡28ページ）。

❶“▲▼”でピクセル設定を変更し、“◀▶”でクオリティー設定を変更します。
❷“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

! 静止画撮影時に設定できます。

■画像サイズについて

4M（記録画素数432万）	2400×1800ピクセル
2M（記録画素数192万）	1600×1200ピクセル
1M（記録画素数約123万）	1280× 960ピクセル
VGA（記録画素数約31万）	640× 480ピクセル

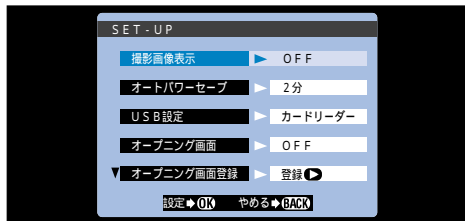
SET モニター明るさ/音量

“ モニター明るさ ”または“ 音量 ”のメニューを実行すると、液晶モニターに“ 調節バー ”が表示されます。

❶“ ◀ ▶ ”で液晶モニターの明るさ/スピーカーの音量を調節します。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押して決定します。

❗音量はモードレバーが再生のときに設定できます。

❗設定を変更しない場合は“ BACK ”ボタンを押してください。

5

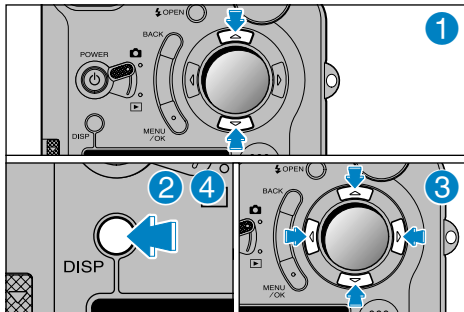
SET-UP 撮影画像表示

撮影後に撮影結果を表示するかどうか設定できます。

OFF ：撮影結果は表示されず、自動的に記録されます。

ON ：撮影結果が約2秒間表示され、自動的に記録されます。

プレビュー：撮影結果が表示され、記録するかどうか選べます。
また、プレビューズームや記録画像の選択が可能です。
●記録する場合“ MENU/OK ”
●記録しない場合“ BACK ”

! 連写・オートブラケティング・多重露光は設定にかかわらず必ずプレビューされます。

プレビューズーム

プレビューを拡大して細部の確認ができます。

❶“ ▲▼ ”でズームします。

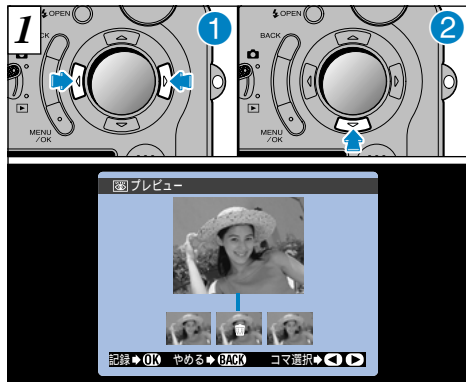
❷“ DISP ”ボタンを押します。

❸“ ▲▼◀▶ ”を押すと、見える範囲を移動できます。

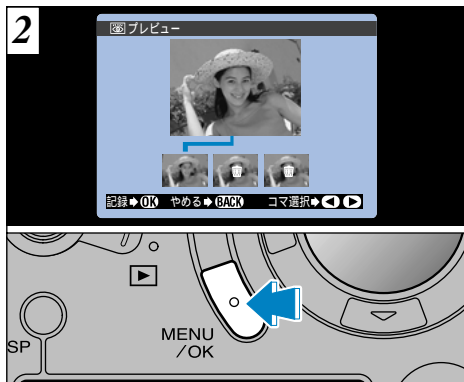
❹もう一度、“ DISP ”ボタンを押すとズームに戻ります。

! プレビューではトリミング保存されません。

! 再生ズーム（➡34ページ）と操作は同じです。

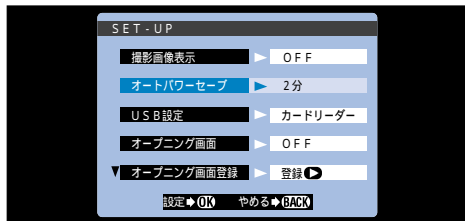
記録画像の選択

連写・オートブラケティングでは画像を選んで記録できます。

❶"◀ ▶"で記録しない画像を選びます。

❷"▼"で"🗑"マークが表示/非表示されます。

記録しない画像すべてに"🗑"マークを表示し、"MENU/OK ボタンを押して画像を記録します。

❗連写・オートブラケティングは、プレビューズームはできません。

5

SET-UP オートパワーセーブ

本機能を有効にし、約30秒間操作をしないと一時的に液晶モニターを消し、消費電力を抑えます（スリープ）。その後、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。バッテリー駆動時間をできるだけ長くしたいときに使用します。

スリープしているときにシャッターボタンを半押しすると、撮影可能状態に復帰します。電源をON/OFFするよりも、素早く撮影可能になるので便利です。

! スリープ時は表示パネルにFinePixと表示されます。

! オートプレイとUSB接続時ではオートパワーセーブは無効になります。

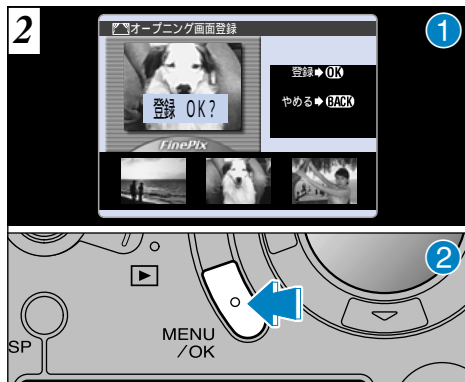
液晶モニターOFF、セットアップ、再生モードではスリープは機能しませんが、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。

! シャッターボタン以外のボタンでも復帰できます。

SET-UP オープニング画面登録

カメラの電源を入れると、ここで登録した画面が液晶モニターに現れます。
❶オープニング画面登録を実行すると登録画面が表示されます。
❷“ ◀▶ ”で登録する画像を選びます。
❸“ MENU/OK ”で設定します。

❶設定の確認画面が表示されます。
❷“ MENU/OK ”で実行します。

❗オープニング画面は枠付きのため、枠の部分は画像が表示されません。

SET-UPのオープニング画面項目はONにしてください（➡90ページ）。

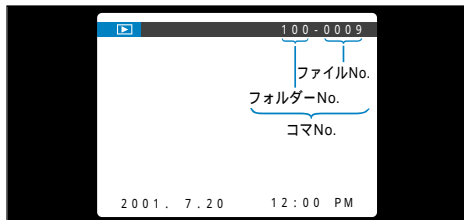
5

SET-UP コマNO.メモリー

A、Bともにフォーマットされたスマートメディアを使用した場合

OFF：スマートメディアごとに「ファイルNo. 0001」から撮影
ON　：最後に使用したスマートメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影

“ ON ”にすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

! 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がスマートメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

画像を再生するとファイルNo.を確認できます。液晶モニターの右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダーNo.です。

! スマートメディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNO.メモリーが機能しません。

! ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダーNo.が1つ繰り上がります。最大で999−9999までカウントされます。

! コマNO.メモリーを“ OFF ”にすると、記憶した「最終ファイルNo.」がリセットされます。

! 他のカメラで撮影した画像は、コマNo.表示が異なる場合があります。

! “ オールリセット ”すると「最終ファイルNo.」がリセットされます。

PC(パソコン)接続編では

PC接続編では、USB接続で利用できる機能の概要と接続方法を説明します。詳しくは別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧ください。

カードリーダー機能について

スマートメディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェース接続により、高速にファイル転送が行えます。(➡100ページ)。

PCカメラ機能について

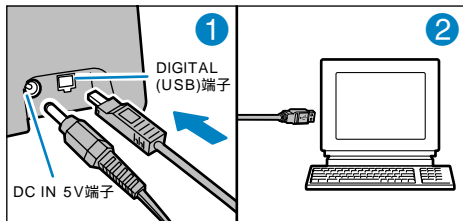
インターネット接続されたパソコン間でテレビ電話が楽しめます。また、動画をパソコンで記録できます(➡102ページ)。

❗ Macintoshはテレビ電話に非対応です。

カメラカスタマイズについて

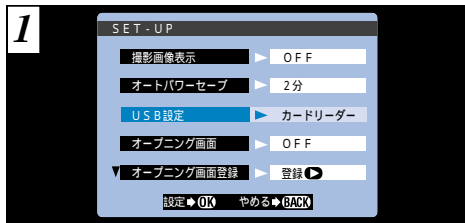
専用ソフトをダウンロードして使用すると下記の機能が利用できます(➡105ページ)。

- パソコン上のお気に入りの画像をオープニング画面に登録できます。
- オートプレイの表示方法を追加できます。
- 撮影した画像のExif情報にコピーライト(撮影者情報)を付加できます。

別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照し、ドライバやソフトをインストールしてください。

①クレードルにACパワーアダプターAC-5Vと、専用USBケーブルを接続します。
②専用USBケーブルをパソコンのUSB端子に接続します。

❗ 専用USBケーブルの向きに気をつけてください。

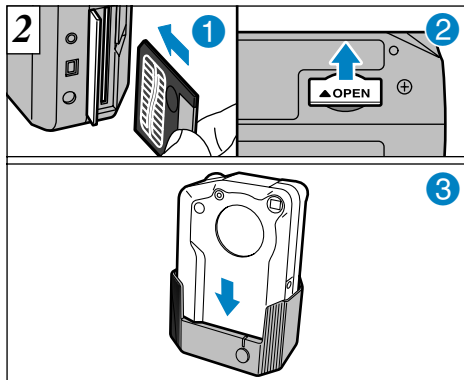
カメラカスタマイズ専用ソフトをダウンロードするには"FinePixViewer"でオンラインユーザー登録が必要です。詳しくは別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧ください。
またオンラインユーザー登録、テレビ電話、ソフトのダウンロードを行うには、インターネット接続環境が必要です。テレビ電話をするにはパソコンにマイクロホンとスピーカーが必要です。

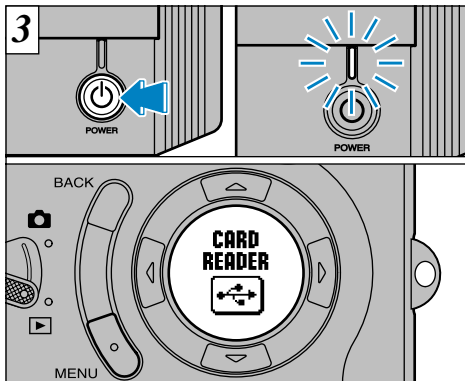
カードリーダー接続方法

“ SET-UP ”のUSB設定を“ カードリーダー ”にします（➡90、91ページ）。

❗ クレードルにACパワーアダプターと、専用USBケーブルが接続されていることを確認してください。

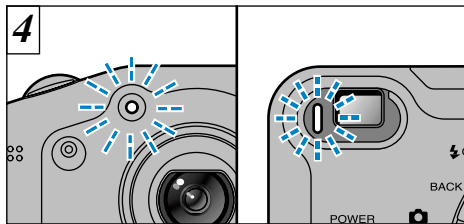
別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照し、ソフトウェアをインストールしてください。

◆FinePixViewerを使用しない場合◆

QuickTime3.0以降のソフトウェアまたはDirectX8.0ランタイム（Windowsの場合）が必要です。ボイス再生はOS付属のソフトウェアで可能です（Windows、Macintosh共）。

①撮影したスマートメディアをセットします。
②カメラ底部の接続端子カバーを開けます。
③カメラの電源は必ずOFFにしてクレードルにセットします。

❗ クレードル接続端子にしっかりと差し込んでください。

クレードルの“ ⏻ ”(電源)ボタンを押すとリムーバブルドライブとしてパソコンに接続され、クレードルの電源ランプが点灯します。また、表示パネルに“ CARD READER ”が表示されます。

❗パソコンと接続中はオートパワーセーブしません。

Windowsでドライバのインストールが開始された場合は、別冊のソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

パソコンと通信中はセルフタイマーランプが点滅/ファインダーランプが緑・橙に交互点滅します。通信中はカメラを取り外さないでください。

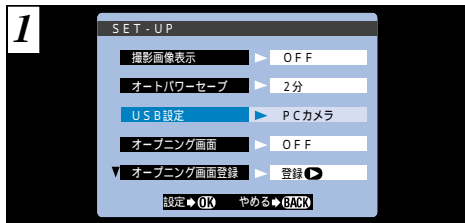
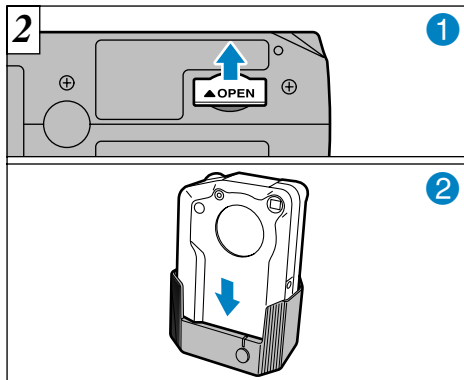
❗カメラを取り外すには104ページをご参照ください。

ファイルの読み出し、書き込みができます。また、カメラカスタマイズ(➡105ページ)ができます。

◆クレードルを使用しない場合◆

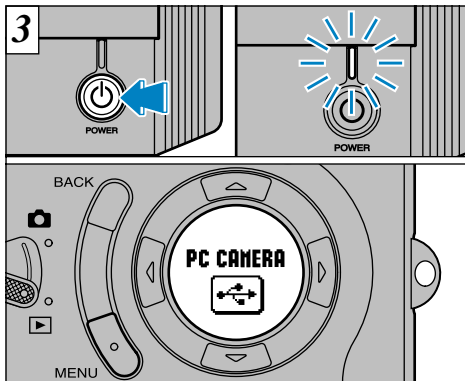
カメラのデジタル(USB)端子に専用USBケーブルを接続し、カメラの電源を入れます(➡7、20ページ)。

❗ACパワーアダプターの使用をおすすめします(➡17ページ)。

PCカメラ接続方法

“ SET-UP ”のUSB設定を“ PCカメラ ”にします（➡90、91ページ）。

①カメラ底部の接続端子カバーを開けます。
②カメラの電源は必ずOFFにしてクレードルにセットします。

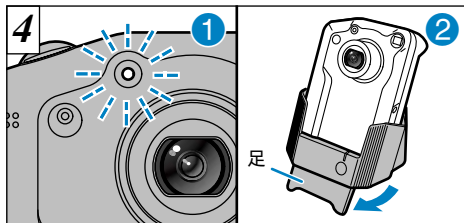
❗クレードルにACパワーアダプターと、専用USBケーブルが接続されていることを確認してください。

別冊のソフトウェア取扱ガイドを参照し、ソフトウェアをインストールしてください。

❗クレードル接続端子にしっかりと差し込んでください。

クレードルの“ ⏻ ”(電源) ボタンを押すとパソコンに接続され、クレードルの電源ランプが点灯します。また、表示パネルに“ PC CAMERA ” が表示されます。

●撮影可能距離：約50cm〜無限遠

! パソコンと接続中はオートパワーセーブしません。

Windowsでドライバのインストールが開始された場合は、別冊のソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

① パソコンと通信中はセルフタイマーランプが点滅/ファインダーランプが緑・橙に交互点滅します。通信中はカメラを取り外さないでください。

② クレードルの角度を変えることができます。PCカメラ接続で使用すると便利です。

! PCカメラ接続では、レンズが広角側に固定されます。

! カメラを取り外すには104ページをご参照ください。

動画をパソコンで記録、またはテレビ電話ができます。詳しくは別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧ください。

◆クレードルを使用しない場合◆

カメラのデジタル（USB）端子に専用USBケーブルを接続し、カメラの電源を入れます（➡7、20ページ）。

! ACパワーアダプターの使用をおすすめします(➡17ページ)。

パソコンと接続を切るには

接続を切る前に必ず次の操作を行ってください。

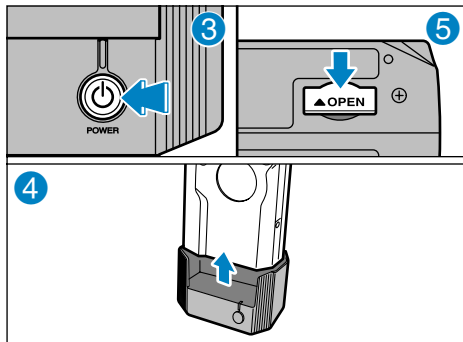
カードリーダー接続の場合

❶セルフタイマーランプ/ファインダーランプが点滅していない(パソコンと通信していない)ことを確認します。
❷ご使用のパソコンを以下のOSの手順に従って操作します。

●Windows 98の場合
クレードル/カメラの電源ランプが点灯していることを確認します。

●Windows Me/2000 Professionalの場合
"FinePixViewer"を終了します。タスクバーの取り外しアイコンをクリックして、メディアの「取り外し」をおこないます。取り外しOKのメッセージを確認します。

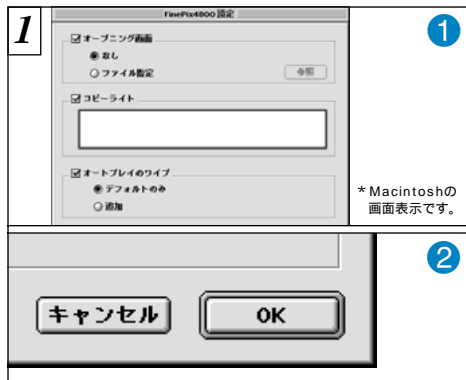
●Macintoshの場合
"FinePixViewer"を終了します。デスクトップの"リムーバブルドライブ"アイコンを"ゴミ箱"にドラッグ&ドロップして、クレードル/カメラの電源ランプがゆっくり点滅していることを確認します。

❸クレードル/カメラの"⏻"(電源)ボタンを押して、パソコンと接続を切ります。
❹カメラを取り外します(クレードルをご使用の場合)。
❺カメラ底部の接続端子カバーを閉めます(クレードルをご使用の場合)。

PCカメラ接続の場合

❶必ず"FinePixViewer"を終了します。
❷セルフタイマーランプ/ファインダーランプが点滅していない(パソコンと通信していない)ことを確認します。
❸クレードル/カメラの"⏻"(電源)ボタンを押して、パソコンと接続を切ります。
❹カメラを取り外します(クレードルをご使用の場合)。
❺カメラ底部の接続端子カバーを閉めます(クレードルをご使用の場合)。

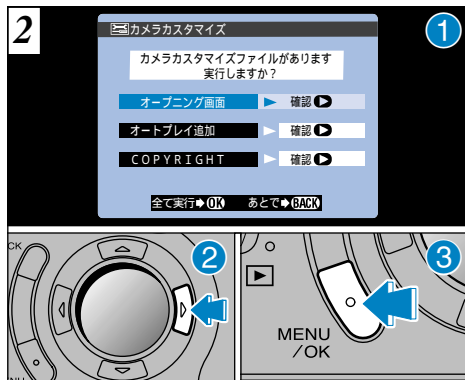
カメラカスタマイズ

1

＊Macintoshの画面表示です。

空き容量のあるスマートメディアをセットし“カードリーダー”として接続します（➡100ページ）。

❶ダウンロードしたソフトウェア“FinePix4800 Customizer”を使用して追加する機能を設定します。

❷OKボタンを押してスマートメディアに書き込みます。

カスタマイズの途中でスマートメディアを入れ換えないでください。

パソコンと接続を切り、カメラを取り外します（➡104ページ）。

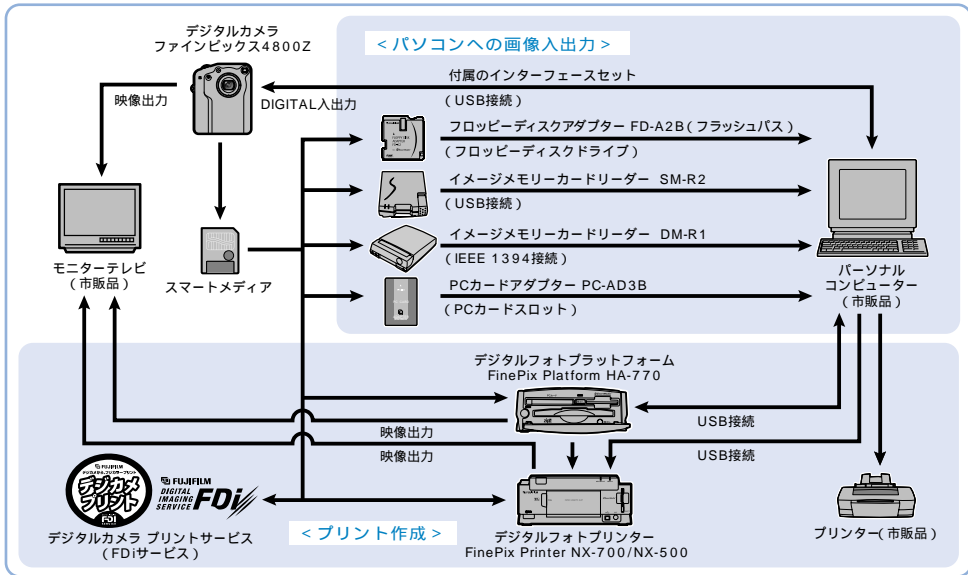
❶カメラの電源を入れると、カスタマイズ画面が表示されます。

❷“▶”を押すと内容を確認できます。

❸“MENU/OK”ボタンを押して実行します。

!“あとで”を選んだ場合、電源を入れ直すとカスタマイズ画面が表示されます。

システムアップ機器（別売）（平成13年4月現在）

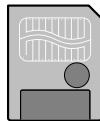
▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成13年4月現在）

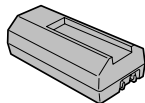
▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

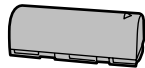
●イメージメモリーカード（スマートメディア™）

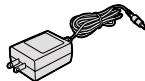
以下の種類がお使いいただけます。

- ●MG-4SB　：　4MB、3.3V仕様
- ●MG-8SB　：　8MB、3.3V仕様
- ●MG-16SB　：16MB、3.3V仕様
- ●MG-32SB　：32MB、3.3V仕様
- ●MG-16SW　：　16MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-32SW　：　32MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-64SW　：　64MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-128SW：128MB、3.3V仕様（ID付き）

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

●バッテリーチャージャー BC-80

充電式バッテリーを短時間で充電します。充電時間は約70分です（NP-80充電時）。
（AC100V～240V、50/60Hz 対応）

●充電式バッテリー NP-80

リチウムイオンタイプの高容量充電式電池です。

●ACパワーアダプター AC-5VH

長時間の撮影時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100～240V、50/60Hz対応）

●ソフトケース　SC-FX8

鹿革製の専用ケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃から
カメラを保護します。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成13年4月現在）

●フロッピーディスクアダプター FD-A2B（FlashPath：フラッシュパス）

通常の3.5インチのフロッピーディスクと同じ形をしたアダプターです。
スマートメディアをフロッピーディスクアダプターに挿入し、フロッピーディスクドライブからスマートメディアの画像をパソコンに取り込むことができます。

●フロッピーディスクアダプター FD-A2対応OS
Windows 95/98/98 Second Edition/Me（DOS/V機）
Windows 95 4.00.950B OSR2以降/98（NEC PC-9821シリーズ）
Mac OS7.6.1～9.1/Power Macintosh（読み込みのみ）

●デジタルフォトプラットフォームHA-770

スマートメディア、PCカード、Zip 3スロット装備し、デジタルカメラ画像のアルバム編集、再生機能搭載。パソコン*、テレビ、プリンターに対応したマルチインターフェース。
＊パソコン接続はUSBインターフェース（対応OS：Windows98（Second Editionを含む）/Windows Me/Windows 2000 Professional、MacOS8.5.1～9.0.4）

●イメージメモリーカードリーダー DM-R1

イメージメモリーカード［スマートメディア、コンパクトフラッシュタイプ Ⅱ（マイクロドライブ対応）］からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。
IEEE1394インターフェースにより高速なファイル転送を行います。

●Windows98 Second Edition、Windows 2000 Professional（読み出し専用）、
iMac DV、およびFireWireを標準装備するPower Macintosh、Mac OS8.5.1～9.0

●PCカードアダプター PC-AD3B

スマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1/JEIDA4.2）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。

パソコンでムービー再生をするには、QuickTime3.0以降のソフトウェアまたはDirectX8.0ランタイム（Windowsの場合）が必要です。また、ムービーファイルをハードディスクにコピーしてから再生してください。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- 湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

砂は本機の大敵です。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴（結露）がつくことがあります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、スマートメディアに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー、スマートメディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

電源についてのご注意

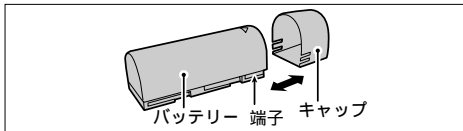
バッテリーについてのご注意

このカメラは、充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。ご使用に際しては、以下の点にご注意ください。特に別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

＊NP-80は出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

●ご使用になるときは、必ずキャップを外してください。

●バッテリーを持ち運ぶときは、カメラに取り付けるかキャップをお使いください。

●バッテリーを保管するときは、キャップを付けて保管してください。

■バッテリーの特性

●バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1～2日前）に充電したバッテリーを用意してください。

●バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。

●寒冷地や低温時では撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。低温時に消耗した電池を使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■充電について

●ACパワーアダプター AC-5V（付属または別売）を使用して、本体で充電ができます。使い切ったバッテリーの充電時間は約5時間です。別売のバッテリーチャージャー BC-80を使用すると、約70分でバッテリーを充電できます。

●このバッテリーは、充電の前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。

●充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。

●充電は周囲の温度が0℃～＋40℃の範囲で可能ですが、バッテリーの性能を十分に発揮させるためには、約＋10℃～＋30℃の範囲で充電してください。

●充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■バッテリーの寿命について

常温で使用した場合、300回以上繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

保存上のご注意

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。

●しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
●長期間保存する場合は、年に一回程度充電した後、使い切ってから保存してください。
●使用しないときは必ずバッテリーをカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
●キャップを付けて、涼しいところで保存してください。
・周囲の温度が＋15℃〜＋25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
・暑いところや極端に寒いところは避けてください。

危険ですので、次のことにご注意ください

⚠バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。
⚠火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
⚠分解したり、改造したりしないでください。

壊れたり、寿命が短くなったりしますので、次のことにご注意ください

●強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
●水にぬらさないようご注意ください。

バッテリーの特性に合わせて上手にお使いいただくために、次のことにご注意ください

●端子は常にきれいにしておいてください。
●温度が上がらない、乾燥した場所に保管してください。長期間高温の場所に置いておくと寿命が短くなります。

長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生にはACパワーアダプターをお使いください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーなど）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。

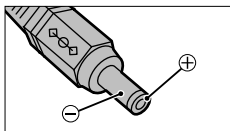
このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

NP-80の主な仕様

公称電圧	3.7V
公称容量	1300mAh
使用温度	0℃〜＋40℃
本体外形寸法	19.8mm×20.4mm×55.5mm
質量	約40g

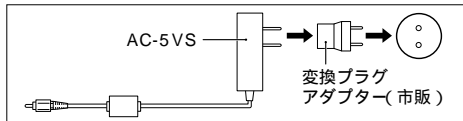
＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

電源についてのご注意

ACパワーアダプターについてのご注意

本機には、必ず専用のACパワーアダプター AC-5V（EIAJ規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。
弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因となることがあります。

- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源スイッチを切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- 本機は、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、本機が熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

海外へお持ちになる方へ

本体にある定格表示が、AC-100V～240V、50/60Hzと表示されているACパワーアダプターは、世界中のほとんどのホテルおよび家庭用電源で使用できます。ただし、電源コンセントの形状は各国、各地様々ですので、お出かけ前には旅行代理店などでお確かめください。

本機を海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などに接続しますと、故障することがありますので、ご使用にならないでください。

AC-5VSの主な仕様

電源	AC 100V～240V、50/60Hz
定格入力容量	16VA～20VA（入力100V～240V、定格出力時）
定格出力	DC 5V、1.5A
使用温度	0℃～＋40℃
保存温度	－10℃～＋70℃
最大外形寸法	47mm×20mm×72mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約120g
接続コード長さ	約2m

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

スマートメディア™についてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像ファイルが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像ファイルを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて

SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■ファイル保持について

以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったとき
＊スマートメディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊スマートメディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にスマートメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき

大切なファイルは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

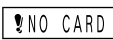
■取扱上のご注意

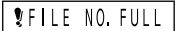
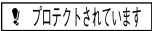
- スマートメディアに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- スマートメディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にスマートメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。スマートメディアが破壊されることがあります。
- 指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
- スマートメディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。
- スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
- スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気に

スマートメディア™についてのご注意

よる影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。

- 静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- インデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
- インデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■スマートメディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのスマートメディアを使って撮影する場合、スマートメディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- スマートメディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダーが作成されます。画像ファイルは、このフォルダー内に記録されます。
- パソコンでスマートメディアのフォルダー名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。スマートメディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- スマートメディア上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。

主な仕様

形式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード SmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃〜＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm（幅/高さ/厚み）

警告表示

▶液晶モニター、表示パネルに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示		警告内容	処　置
液晶モニター	表示パネル		
(赤点灯)		カメラのバッテリーの容量が少ない。	バッテリーを交換するか、充電してください。
NO CARD	NO CARD	スマートメディアが入っていない、または入れている向きが間違っている。	スマートメディア(3.3V仕様)を正しい向きにセットしてください。
CARD NOT INITIALIZED	ERR CARD	●スマートメディアがフォーマット(初期化)されていない。 ●スマートメディアの接触面(金色の部分)が汚れている。 ●カメラが故障している。	●スマートメディアをフォーマットしてください。 ●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。 ●弊社サービスステーションにお問い合わせください。
CARD ERROR	ERR CARD	●スマートメディアの接触面(金色の部分)が汚れている。 ●スマートメディアが壊れている。 ●スマートメディアのフォーマットが異常。 ●カメラが故障している。	●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションにお問い合わせください。
CARD FULL	CARD FULL	スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるスマートメディアを使用してください。
PROTECTED CARD	CARD	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	誤記録防止状態になっていないスマートメディアを使用してください。

警告表示

警告表示		警告内容	処　　置
液晶モニター	表示パネル		
! READ ERROR	! ERR READ	●正常に記録されていないファイルを再生した。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●カメラが故障している。	●再生することはできません。 ●スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。 ●弊社サービスステーションにお問い合わせください。
! FILE NO. FULL	FILE FULL	コマNo.が999―9999に達している。	コマNO.メモリー機能をOFFにして、フォーマットしたスマートメディアに撮影してください。
! WRITE ERROR	! ERR CARD	●スマートメディアと本体の接触異常またはスマートメディアの異常のため記録できない。 ●撮影した画像がスマートメディアの空き容量を超えて記録できない。	●スマートメディアを入れ直すか電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションにお問い合わせください。 ●新しいスマートメディアを使用してください。
! ERROR	! ERR READ	●ボイスメモファイルが異常。 ●カメラが故障している。	●ボイスメモを再生することはできません。 ●弊社サービスステーションにお問い合わせください。
))	――	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボ撮影する。ただし撮影シーンやモードによっては、三脚を使用してください。
! プロテクトされています	――	プロテクトされているコマを消去しようとした。	プロテクトを解除してください。
! AE	――	AE連動範囲外。	撮影できますが、適正露出ではありません。

警告表示		警告内容	処　　置
液晶モニター	表示パネル		
! AF	——	AF（オートフォーカス）がうまく働かない。	●暗い場合は被写体から約2m離れて撮影してください。 ●AFロック撮影をしてください。
プリント予約されています このコマを消去しますか？ プリント予約されています 全コマ消去しますか？	——	削除しようとした画像はプリント予約されている。	画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。
プリント予約再設定OK？	——	DPOFファイルにエラーがある。または他の機器で設定したDPOFファイルである。	DPOFファイルを新しく作成し、DPOF設定をすべてやり直す場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。
! DPOF FILE ERROR	——	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。999コマ以下にしてください。
! ZOOM ERROR ! FOCUS ERROR	! ERR	カメラが誤作動または故障している。	●レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。 ●電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションにお問い合わせください。
! LENS COVER	! ERR	レンズカバーが異常。	●レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。 ●電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションにお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

▶故障と思う前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションにお問い合わせください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	●バッテリーが消耗している。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。 ●カメラとクレードルが正しく接続されていない。	●充電済みのバッテリーと交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。 ●正しく接続する。
電源が途中で切れる。	●バッテリーが消耗している。	●充電済みのバッテリーと交換する。
電池の消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●バッテリーの寿命。	●バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふく。 ●充電済みの新しいバッテリーと交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが入っていない。 ●スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。	●スマートメディアを入れる。 ●新しいスマートメディアを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの接触面を乾いたきれいな布でふく。

症　　状	原　　因	処　　置
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが壊れている。 ●オートパワーセーブになり、電源が切れた。 ●バッテリーが消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる。 ●電源を入れる。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボ撮影ができない。	●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●ストロボが閉じている。 ●ストロボ撮影しないモードになっている。 ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。	●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●ストロボをポップアップする。 ●モードを切り換える（➡40ページ）。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。
ストロボの充電ができない。	●記録できるスマートメディアが入っていない。 ●ストロボが閉じている。 ●バッテリーが消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる、コマを消去する、誤記録防止状態を解除する。 ●ストロボをポップアップする。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボに指がかかっている。 ●ストロボを指で押し下げている。	●被写体に近づく。 ●カメラを正しく構える。 ●カメラを正しく構える。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●マクロで遠景を撮影した。 ●暗い被写体を撮影した。	●レンズを清掃する。 ●マクロを解除する。 ●被写体から約2m離れて撮影する。

故障とお考えになる前に

症　状	原　因	処　置
画像に点状のノイズがある。	●1/4秒より長いシャッタースピードで撮影した。	●CCDの特性によるもので故障ではありません。
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除する(ライトプロテクトシールをはがす)。
全コマの消去で、すべてのコマが消せない。	●コマがプロテクトされている。	●プロテクトを解除する。
カメラのレバーやダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●バッテリーが消耗している。	●電源(バッテリー)をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
“DISP”ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。	●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。
カメラから音が出ない。	●カメラの音量設定が小さくなっている。 ●撮影/録音中にマイクをふさいでいる。 ●再生中にスピーカーをふさいでいる。 ●A/Vケーブルを接続している。	●音量を調節する。 ●撮影/録音時はマイクをふさがない。 ●再生中はスピーカーをふさがない。 ●A/Vケーブルを外す。
テレビに画像が出ない。	●カメラとテレビの接続が間違っている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。	●正しく接続する。 ●テレビの入力を「ビデオ」にする。

症　状	原　因	処　置
PC（パソコン）接続ができない。	●カメラとクレードルが正しく接続されていない。 ●クレードルとUSBケーブルが正しく接続されていない。 ●カメラとUSBケーブルが正しくセットされていない。 ●PCの電源が入っていない。	●正しく接続する。 ●正しく接続する。 ●正しくセットする。 ●PCの電源を入れる。
カードリーダー接続でレンズが出る。	●カメラとクレードルが正しく接続されていない。 ●PCの電源が入っていない。	●正しく接続する。 ●PCの電源を入れる。
充電しようとしたが、セルフタイマーランプが点灯しない。	●バッテリーが入っていない。 ●カメラとクレードルが正しくセットされていない。 ●クレードルとACパワーアダプターが正しく接続されていない。	●バッテリーを入れる。 ●正しくセットする。 ●正しく接続する。
バッテリー充電中セルフタイマーランプが点滅する。	●バッテリーが古くなっている。	●新しいバッテリーと交換する。
カメラが正常に動作しなくなった。	●カメラが予期しない状態になっている。	●バッテリーをいったん取り出して、再び取り付け直してから操作する。

主な仕様

システム

●**型式**：デジタルカメラ
●**記録メディア**：スマートメディア（3.3V仕様）
●**記録方式**：
静止画：DCF準拠（Exif Ver.2.1 JPEG準拠）/ DPOF対応
動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG）
音　声：Exif Ver.2.1音声ファイル規定準拠
●**記録画素数（ピクセル）**：
2400×1800/1600×1200/1280×960/640×480
ハニカム信号処理により最大432万画素

●**撮像素子**：1/1.7型スーパーCCDハニカム
原色フィルター採用（総画素数：ハニカム配列の約240万画素, 有効画素数：ハニカム配列の216万画素）
●**撮像感度**：ISO 125、200、400相当
●**レンズ**：スーパーEBC フジノン光学式3倍ズームレンズ
●**焦点距離**：8.3mm～24.9mm
（35mmカメラ換算：約36mm～108mm相当）
●**ファインダー**：実像式光学ファインダー
●**露出制御**：TTL64分割測光、プログラムAE、マニュアル撮影モード時露出補正可能
●**ホワイトバランス**：
オート（マニュアル時：7ポジション選択可能）

●**スマートメディア標準撮影枚数**：
撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル（記録画素数）	4M 2400×1800（432万）			2M 1600×1200（192万）		1M 1280×960（約123万）		VGA 640×480（約31万）	ムービー	ボイスレコーダ
クオリティー	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL	―	―
画像1枚のファイルサイズ	約1700KB	約810KB	約330KB	約770KB	約390KB	約620KB	約320KB	約90KB	―	―
MG-4S（4MB）	2	4	11	4	9	6	12	44	約23秒	約8分
MG-8S（8MB）	4	9	23	10	19	12	25	89	約47秒	約16分
MG-16S（16MB）	8	19	46	20	39	25	49	163	約94秒	約33分
MG-32S（32MB）	18	38	94	41	79	50	99	330	約191秒	約67分
MG-64S（64MB）	36	77	189	82	159	101	198	663	約385秒	約135分
MG-128S（128MB）	74	156	379	166	319	204	398	1330	約774秒	約272分

●**撮影可能範囲：**
標　準：約60cm～無限遠
マクロ：約20cm～約80cm
●**シャッター：**
可変速　3秒～1/2000秒（メカニカルシャッター併用）
●**絞り：**F2.8～F4.5/F7.0～F10.8自動切り換え
●**フォーカス：**TTLコントラスト方式　オート/マニュアル
●**セルフタイマー：**タイマー時間　約10秒
●**消去方式：**1コマ消去・全コマ消去・フォーマット（初期化）
●**液晶モニター：**2型　13万画素　低温ポリシリコンTFT
●**ストロボ：**調光センサーによるオートストロボ
撮影可能距離　広角：約0.2m～約3.5m
望遠：約0.2m～約2m
発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/スローシンクロ

入・出力端子

●**VIDEO OUT端子：**
ステレオミニミニ（φ2.5mm）ジャック
音声：316mVrms出力インピーダンス 2.2kΩ以下
●**デジタル（USB）端子：**パソコンへのファイルの転送
●**DC入力端子：**専用ACパワーアダプター AC-5V接続
●**クレードル接続端子：**付属のクレードルと接続

電源部、その他

●**電源：**充電式バッテリーNP-80（付属）または専用ACパワーアダプターAC-5V使用
●**使用条件：**
温度0℃～＋40℃　湿度80%以下（結露しないこと）

●**バッテリー作動可能枚数／時間（フル充電時）：**

電池の種類		撮影枚数	オートプレイ	ボイス録音
NP-80	液晶モニターON	約120枚	約1時間	約1時間
	液晶モニターOFF	約250枚	—	約3時間

撮影枚数は常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できるめやすです。ただし、カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動があります。低温時では作動可能枚数／時間が少なくなります。
●**本体外形寸法：**
80mm×97.5mm×36.3mm（幅/高さ/奥行き）
＊付属品、突起部含まず
●**本体質量：**約258g
（付属品、バッテリー、スマートメディア含まず）
●**撮影時質量：**約300g（バッテリー、スマートメディア含む）
●**付属品：**5ページをご覧ください。
●**クレードル外形寸法：**
80mm×53mm×80mm（幅/高さ/奥行き）
●**クレードル質量：**約125g
●**クレードル入・出力端子：**DC入力端子、デジタル（USB）端子、接続端子（カメラ接続）
●**別売アクセサリー：**107～108ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

用語の解説

AF/AEロック：このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

EV：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式：Exif（イグジフ）は、JEITA（電子技術産業協会）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。

JPEG（ジェイペグ）：Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

Motion JPEG（モーション ジェイペグ）：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマット AVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。
Windows：MediaPlayer　＊DirectX8.0以降必要
Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
で再生できます。

WAVE（ウェイブ）：音声を保存するためのWindowsにおける標準フォーマットです。
拡張子は“.WAV”で、データ自体はPCM記録したものと、圧縮記録したものがあります。本機ではPCM記録を採用しています。
PC上では、
Windows：MediaPlayer
Macintosh：QuickTime Player　＊QuickTime3.0以降
で再生できます。

オートパワーセーブ機能：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、約30秒間操作をしないと液晶モニターなどを消し（スリープ）、その後しばらくすると電源をOFFします。本機では2分または5分の設定ができます。

- セットアップでオートパワーセーブを無効にした場合、またはオートプレイ時やUSB接続時は、オートパワーセーブしません。

ホワイトバランス：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ
お買上げ店、または弊社サービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間
本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または弊社サービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。
- お買上げ店や弊社サービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合は弊社サービスステーションで、お預かりしてから通常7～14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
■型名　　　：ファインピックス4800Z
■故障の状況：できるだけ詳しく
■ご購入年月日